

がまごおり「みらいキャンバス」基本構想（案）のパブリックコメント募集

蒲郡市教育委員会は、蒲郡駅周辺に図書館・ホール・生涯学習センター機能などが集めた施設をつくる事業（全市利用型施設リーディングプロジェクト）の基本的な考え方（理念・コンセプト）や施設の方向性を示す、がまごおり「みらいキャンバス」基本構想の策定に向けて素案を取りまとめました。

策定にあたり、広く市民の皆さんからご意見を募集します。

募集期間	令和6年4月2日（火）から令和6年5月1日（水）まで
担当課	教育委員会 教育政策課 TEL：(0533) 66-1219
閲 覧	
（１）ホームページからの閲覧 蒲郡市ホームページ 教育委員会教育政策課のページ https://www.city.gamagori.lg.jp/unit/kyoikuseisaku/leading-pabukome.html	
（２）冊子の閲覧場所 市役所情報公開コーナー（市役所新館4階）、教育委員会教育政策課（市役所新館6階）、公民館 （ご注意） 閲覧できる時間帯は、それぞれの施設の開館時間に限ります。	
意見の提出方法	
直接持参	教育政策課へ書面で提出
郵送	〒443-8601 蒲郡市旭町17番1号 蒲郡市役所 教育委員会 教育政策課（当日消印有効）
F A X	(0533)66-1184 E-mail kyoiku@city.gamagori.lg.jp
意見等の書式	
ご意見等の書式は特に定めていませんが、書面やFax、E-mailの表題は、『がまごおり「みらいキャンバス」基本構想（案）への意見』と記載ください。 郵便番号、住所、氏名（法人・団体の場合は、所在地、名称、代表者氏名）、連絡先（電話番号、メールアドレスなど）を明記の上、上記のいずれかの方法でご提出ください。	
公表	
お寄せいただきましたご意見等は、市のホームページ等で公表いたします。 ただし、個人及び法人に関する情報、または特定の個人及び法人が識別され得る記述がある場合は、公表の際に当該箇所を伏せさせていただきます。 ご意見に付記された個人情報は適正に管理し、本意見募集に関する業務にのみ利用させていただきます。	

閲覧用

がまごおり「みらいキャンバス」基本構想（案）
～全市利用型施設 リーディングプロジェクト～
のパブリックコメントを募集します。

パブリックコメント募集期間

令和6年4月2日(火)～令和6年5月2日(水)

蒲郡市教育委員会 教育政策課

がまごおり「みらいキャンバス」

基本構想（案）

～全市利用型施設 リーディングプロジェクト～

令和 年 月

蒲都市

目次

はじめに.....	1
I 基本事項の整理.....	2
1. 本構想の策定にあたって.....	2
2. 市民ニーズの把握.....	12
3. 関連施設の状況と将来のあるべき姿.....	17
4. プロジェクトの事業予定地の選定.....	24
II 基本理念・コンセプト.....	26
1. 基本理念（目的）.....	26
2. 新たな施設が担う役割.....	26
III 新施設の基本機能（施設計画の概要）.....	29
1. 施設全体.....	29
2. 図書館機能.....	30
3. ホール機能.....	32
4. 生涯学習センター機能.....	34
5. その他考慮すべき基本的な機能.....	35
IV 「みらいキャンパス」の整備に向けて.....	36
1. 施設規模のイメージ.....	36
2. 建設予定地の条件整理.....	37
V 事業手法の検討.....	39
1. 事業手法の検討に当たって優先すること.....	39
2. 主な事業手法の整理.....	39
3. 事業手法の決定について.....	40
VI 今後のスケジュール.....	41
参考資料.....	資料編-1
1. 市民フォーラム・ワークショップ.....	資料編-1
2. 市民アンケート結果.....	資料編-19
3. 基本構想策定に関する検討状況.....	資料編-20



はじめに



蒲郡市の文化芸術、学びや教養を長年にわたり支え、多くの市民に親しまれてきた市民会館や図書館は、ともに建設から50年以上が経過しています。施設の老朽化が進行しているとともに、耐震性に課題を有しており、市民が安全かつ快適に利用できる公共施設として再整備する必要があります。

また施設面の課題とともに、人口減少や少子高齢化といった社会構造の変化、デジタル技術の急速な進展や新型コロナウイルス感染症の流行による生活様式や人々の価値観の多様化などから、市民が公共施設に求める役割やサービスも大きく変容してきており、現在の施設や運営方法では、多様化する市民ニーズに対応しづらくなってきています。

本プロジェクトでは、多様化するニーズを把握するため、これまで様々な市民ワークショップやアンケート等を重ね、市民・利用者の夢や希望、想いを確認してきました。また、専門家による講演会や有識者を交えた協議会などを開催し、これから将来に向けた公共施設のあるべき姿について研究し、より良い施設づくりの実現に向けて検討を進めてきました。

本構想には、市の想いだけでなく、専門的な知見、そして市民のみなさまとのつながり・想いを大切し、さまざまな人が関わり合いながら、共に創り上げてきた基本理念やコンセプト、施設のイメージ等が描かれています。

なお、構想のタイトルにもあるように、この新施設のコンセプトを、がまごおり「みらいキャンパス」(本編26ページ)と掲げています。今後の本プロジェクト推進における施設の通称・愛称として、市民のみなさまにも親しみをもっていただけるよう、周知してまいります。

がまごおり「みらいキャンパス」の創造に向けては、これから実施する基本計画や設計業務等において、本構想で掲げた理念やコンセプト、施設のイメージを大切にしていくとともに、市民のみなさまにも様々な取組に参画していただく場を設けます。

蒲郡市の“みらい”を切り拓くための場をいまから、共に創る＝「共創」していけるよう、力を尽くしてまいります。



I 基本事項の整理



1. 本構想の策定にあたって

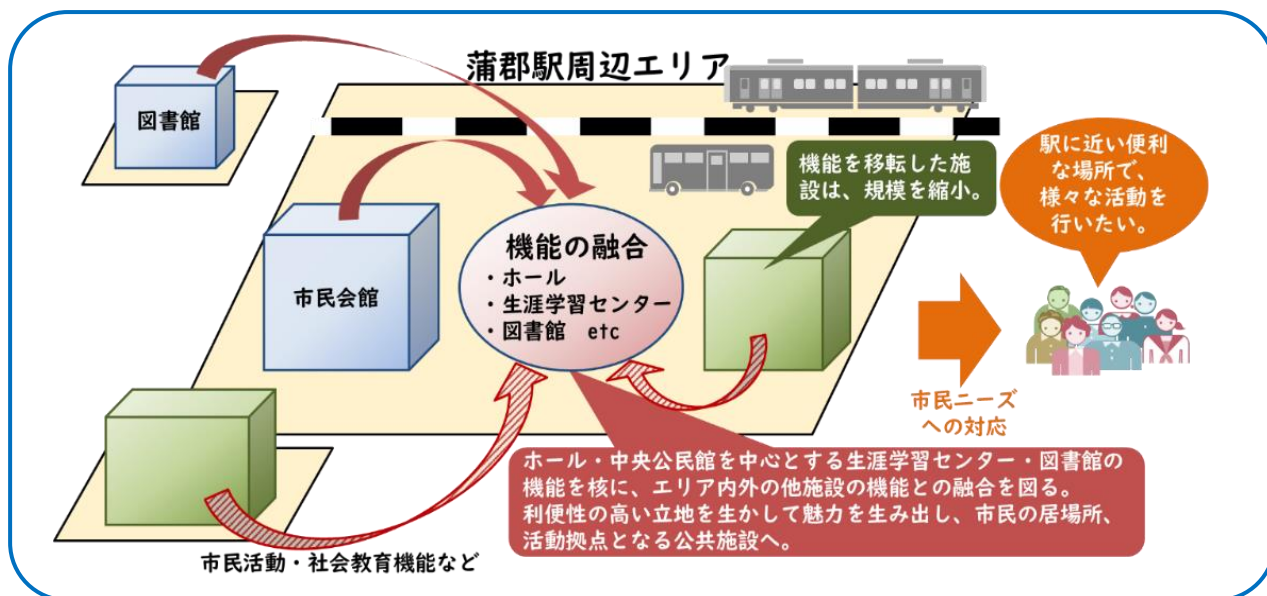
(1) 全市利用型施設における「リーディングプロジェクト」について

本市の公共施設の多くは、高度成長期の昭和 40～50 年代ごろに整備されており、老朽化が進展し一部には耐震性能が不足する施設も存在します。また、設置当時とは教育、文化のあり方も変わり、市民ニーズも多様化するなか、現在設置されている公共施設は、市施策や利用傾向と施設機能や規模との間で不一致も見られるなど、施設面、機能面の諸課題が発生しています。

このような状況下において、本市では公共施設の更新、再編に向けた取組を「蒲郡市公共施設マネジメント実施計画(令和4(2022)年3月改訂)」(詳細4ページ参照)に基づき推進しており、実施計画においては公共施設マネジメント推進にあたって先導的なプロジェクトを「リーディングプロジェクト」として設定しています。

●全市利用型施設におけるリーディングプロジェクトの概要

蒲郡駅周辺エリアにおいて、令和 13(2031)年度までに、市民会館が持つホール機能、図書館機能及び中央公民館を含む生涯学習センター機能の3つを核とした、市民の居場所、活動拠点となる場を形成します。



本構想については、この「全市利用型施設におけるリーディングプロジェクト」を具体化するために策定するものです。

¹ 公共施設における課題の詳細については「公共施設白書(令和3年3月改訂)」・「公共施設マネジメント実施計画(令和4年3月改訂)」【主に施設面の課題】、「社会教育4施設のあり方(令和3年11月策定)」【主に機能面の課題を整理】等をご参照ください。

(2) 上位計画・関連計画

① 第五次蒲郡市総合計画(令和3(2021)年6月)

1) まちづくりの基本理念

・「人と自然との共生」

海、山、温泉など地域資源を大切にし、自然との共生による持続可能性を高める

・「安全・安心・快適」

快適な環境により、安全安心に住み続けられ、市民全員が居場所と役割を持ち活躍する

・「一人ひとりが主役」

市民一人ひとりが夢と希望を持ち、主役となり人が輝く

・「つながる」

市民・事業者・行政が一体となり、人と人が支え合い、つながりあう

2) 将来都市像

「豊かな自然

一人ひとりが輝き

つながりあうまち

君が愛する蒲郡」



・「豊かな自然」

豊かな自然を今後も継承して、市民や来訪者が快適に暮らし、楽しむことができるまちづくりを一層進めます。

・「一人ひとり輝く」

一人ひとりが主役となり自発的に自分の力を生かし、自分らしく、生きがいを実現し、活躍できる舞台となる都市を築くとともに、環境と社会、経済がバランス良く発展した持続性の高いまちをめざします。

・「つながりあう」

一人ひとりの価値観に応じて市民が快適に暮らし、本市を訪れる人が本市の魅力を楽しみ、人々がふれあい、交流することで、いつまでも笑顔があふれるまちをめざします。

また、人々が語り合い、絆を深め合うことで幸せを感じ、さらに新たな人づくり、まちづくりを実現していく都市をめざします。

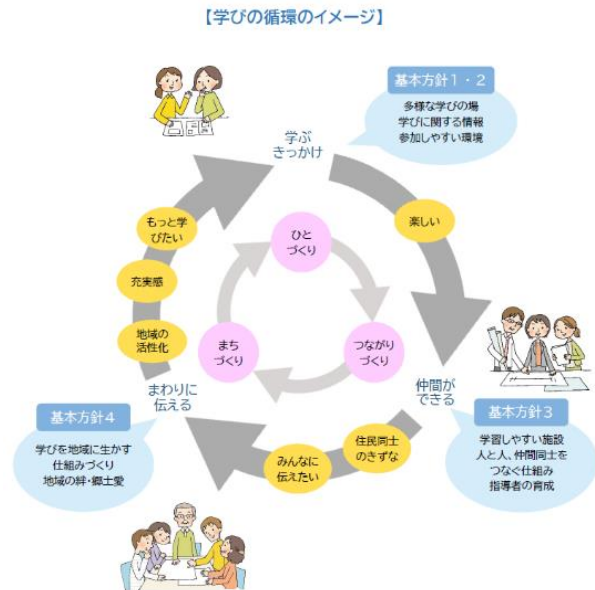
・「君が愛する」

市民の地元への愛着を深めてシビックプライドを醸成し、本市で過ごす様々な人が、多様な活動を実現できる場とし、都市としての価値を向上していくことをめざします。

② 蒲郡市生涯学習推進計画(令和4(2022)年3月改訂)

第五次蒲郡市総合計画の分野別計画である「教育・文化」の基本目標「人と文化を未来につなぐまちづくり」の達成に向け、生涯学習や文化芸術の推進にあたっての基本的方向を示すものです。

市民一人ひとりの学習活動を支えるための学習機会、文化芸術に触れる機会の提供とともに、その成果をまちづくりに幅広く生かすことができる仕組みづくりを進め、本市の特徴である豊かな自然と観光や地元産業、音楽をはじめとした文化芸術を念頭に「蒲郡らしい」生涯学習社会の実現を目指としています。



③ 社会教育4施設のあり方(令和 3(2021)年 11 月)

本市の図書館、市民会館、生命の海科学館、博物館について、施設・設備面や機能面の課題を踏まえ、更なる市民サービスや利用満足度の向上を図るためのビジョンを示すものです(詳細は17ページ以降参照)。

④ 蒲郡市公共施設マネジメント実施計画(令和4(2022)年3月改訂)

将来に大きな負担を残さないよう適正な行財政運営を行うとともに、公共施設の機能の維持や魅力の向上を図ることで、一人ひとりの市民が「住んでよかった」「住み続けたい」と思えるような誇りと愛着を持てるまちを目指し、今後の公共施設の整備を進めるための方策を示すものです。

施設保有量の縮減や費用の捻出、市民満足度の向上を目標として設定しており、本構想の元となる「全市利用型施設におけるリーディングプロジェクト(詳細は2ページ参照)」もこの計画において規定されています。



(3) 考慮すべき市の関連計画や施策・方針

① サーキュラーシティ蒲郡 アクションプラン(令和5(2023)年3月)

「教育」・「消費」・「健康」・「食」・「観光」・「交通」・「ものづくり」の7つの重点分野のもとに、サーキュラーエコノミー(廃棄物を出ない仕組みを作る経済システム)を推進するとしています。地球環境や労働環境を踏まえた持続可能な社会を実現することで、人々の「ウェルビーイング」の実現を目指します。



② ゼロカーボンシティ宣言(令和3(2021)年3月)

2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにするまち「ゼロカーボンシティ」の実現に向け、市民や事業者と一体となって取り組むことを宣言しました。

③ 蒲郡市都市計画マスタープラン (令和5(2023)年3月)

市町村の都市計画に関する基本的な方針を定めたもので、蒲郡駅周辺を本市の中心拠点として位置付け、基幹的な都市機能の集積を図るとしています。



④ 蒲郡市東港地区まちづくりビジョン (令和3(2021)年8月)

「蒲郡駅周辺市街地エリア」「海辺のみなとエリア」「竹島周辺エリア」を合わせて「東港地区」と位置付け、市民等が中心となった「公民連携のまちづくり」と、民間活力を導入した「官民対話による事業推進」の視点を持ってまちづくりに取り組み、市民やまちを訪れる人たちが、それぞれの日常の一部として、歩いて過ごしたくなる、居心地のよい「海辺のまち」の形成を目指すとしています。



⑤ 蒲郡市立地適正化計画(令和6(2024)年6月改訂)

居住を誘導する区域や都市機能施設の誘導を図る区域を示し、コンパクトな都市構造を目指すものです。また、蒲郡駅周辺を本市の中心拠点として位置付け、都市機能の誘導を図っていきます。

⑥ 第2期蒲郡市子ども・子育て支援事業計画(令和4(2022)年3月改訂)

本市の教育・保育に関する施策を総合的・計画的に推進するために策定するもので、「みんなで育てよう 子どもの笑顔 かがやくまち蒲郡」を理念に、「子育て家庭への支援の充実」「子育てしやすい地域・まちづくり」「誰もが子育て・子育てができる仕組みづくり」を基本目標に掲げています。

⑦ 蒲郡市地域強靱化計画(令和3(2021)年6月)

大規模災害が発生しても機能不全に陥らず、より強くてしなやかな地域の構築を目指し、本市の強靱化の指針となる計画です。本市に影響を及ぼす大規模自然災害として地震・津波災害、高潮災害が挙げられており、想定されるリスクシナリオのひとつに、施設の倒壊や大規模な津波、高潮による死傷者の発生が挙げられています。

⑧ イネーブリング・シティの形成

本市では、従来の「健康」を軸とした健康施策の充実に加え、「幸福」を軸として健康を高め、すべての人々がウェルビーイングを実感できるまちづくりの推進を行うため、今後は市の計画や施策に「健康」と「幸福」の視点を盛り込み、市民が幸福感を感じながら健康で住み続けられるまち「イネーブリング・シティ」の形成を目指すこととしています。

(4) 社会情勢や政策課題の把握

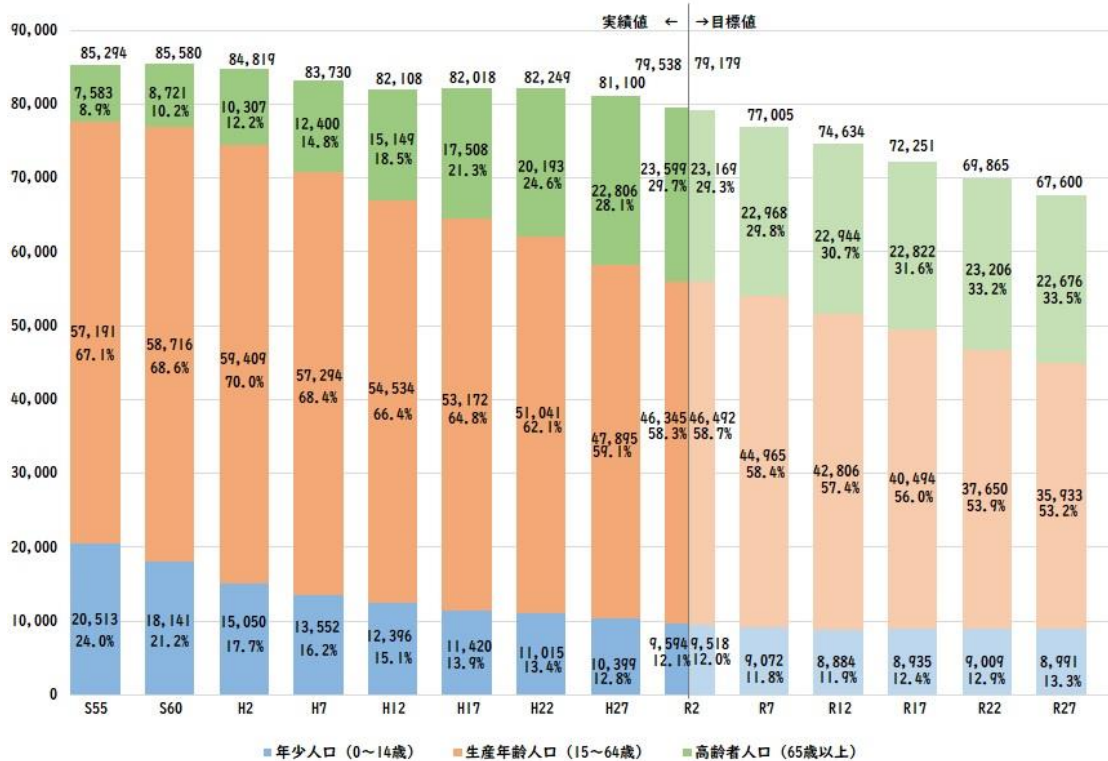
本市の社会情勢や政策課題から、本施設における方向性や機能について整理します。

① 本市を取り巻く社会情勢

以下に示すような社会情勢の変化等も見据えながら、これからの蒲郡市に必要な機能について検討します。

1) 人口減少・高齢化の急激な進行

本市の人口は、昭和60(1985)年以降緩やかに減少を続けており、令和2(2020)年現在で79,538人となっています。「蒲郡市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」においては、令和27(2045)年の目標人口を67,600人としており、その頃には現役世代である生産年齢人口(15~64歳)はピーク時に比べ約23,000人減少するとともに、人口の3人に1人が65歳以上になるなど、年齢構造が大きく変化すると予測しています。



※実績値は各年の国勢調査の結果(年齢不詳按分済)をもとに作成

※目標値は蒲郡市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(平成22(2010)年国勢調査をもとに平成28(2016)年3月に策定)をもとに作成

※令和2(2020)年のデータについては実績値と目標値を併記

出所:蒲郡市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン、国勢調査

2) 価値観やライフスタイルの多様化

近年では人口減少や高齢化、職住分離などの社会の変化に伴い、コミュニティが希薄化しています。そのため、地縁や共通の事柄によるつながりが求められています。また、共働き世帯の増加や核家族化の進行などにより、より一層手厚い子育て支援も求められるようになりました。

このように、市民が行政に求めるニーズも多様化しているため、新たなニーズに対応できるよう市民サービスの拡充が必要になってきています。

3) 若者の市民意識

第五次蒲郡市総合計画策定にあたり、若者(中高生)向けに行ったアンケート調査によると、80%以上が蒲郡のことが好き、どちらかといえば好きと回答している一方で、これからも暮らしていきたいと回答したのは50%台にとどまっています。

暮らしたくない理由には、買い物や外食が不便、公共施設が充実していないなどの回答がありました。

4) 安心安全に対する意識の高まり

今後30年以内に発生する確率が約70～80%と予想されている南海トラフ地震などの大規模地震や、近年多発する局所的短時間豪雨への対応など、ハード・ソフト両面において、安心安全なまちづくりの推進が求められています。

② 本市の政策課題

政策課題の検討にあたっては、総合計画など、市の将来を描いた各種計画における方向を踏まえたアプローチと、実際に現場で施策の推進にあたる関係部署の考えを基にしたアプローチ、その両面の視点を踏まえて検討することが重要です。

1) 各種計画における方向性

・まちづくりの観点

第五次蒲郡市総合計画では、まちづくりの課題として蒲郡駅周辺に生活サービス施設の誘導・集約し各種サービスが効率的に提供できるよう取り組む必要があるとしています。これを受け、蒲郡市都市計画マスタープランや蒲郡市立地適正化計画では、蒲郡駅周辺を本市の中心拠点として位置付け、様々な都市機能を誘導することとしています。

また、蒲郡市東港地区まちづくりビジョンでは、現在の蒲郡駅周辺エリアでは本市の玄関口として、景観面や賑わいの面における課題を示しており、日々の生活を楽しめるような充実した空間を目指すこととしています。

・生涯学習推進の観点

社会教育4施設のあり方で整理しているように、本市の生涯学習の中核をなす図書館や市民会館などの諸施設では、ソフト・ハード両面で多くの課題を抱えています(詳細は17ページ以降参照)。

・子育て支援の観点

蒲郡市子ども・子育て支援事業計画では、本市の未来をつくる存在である子どもが幸せを実感し、健やかに成長することができるよう、子どもの育ちを第一に考え、子どもの成長過程にあわせた切れ目のない支援を行うとしています。

また、小中学校の部活動の廃止や希望入部制への移行、価値観やライフスタイルの変化などに伴い、多様な過ごし方、使い方ができる、子どもの居場所、活動拠点を確保する必要があります。

・公共施設マネジメントの観点

蒲郡市公共施設マネジメント実施計画では、施設保有量の適正化のため、更新する建物全体で概ね3割の床面積を縮減することを目標に掲げています。

一方で、公共施設で必要とされる役割を的確に捉え、利便性の向上に加え市民生活を豊かにし、さらにはまちの拠点、市民の居場所となるような施設づくりを行うことも重要です。したがって、本施設においても施設規模の適正化に努めるとともに豊かな市民生活を支える魅力的な施設を整備することが必要です。

また、民間活力を効果的に活用し、資金調達や運営の効率化だけでなく、公民連携で新たな価値を創造できるような取組みも、今後の公共施設のあり方として重要な視点のひとつと言えます。

2) 本市関連部署により検討、整理した視点・機能

1)で整理した各種計画における方向性も踏まえながら、関係部署においても施設の方向性や取り込む機能について検討を行いました。

必要と考える視点・機能

① 市民(特に若者世代)が集まり、活動し発信する拠点となる場所

1) くつろぎの空間

- ・ カフェや庭などのくつろぎを生む機能や雰囲気
- ・ 自由に飲食ができる
- ・ 目的がなくても訪れることができる
- ・ 若者の居場所になる

2) 人が集まる・交わる、活動する、発信する場所

- ・ 音楽やダンスの発表ができる
- ・ 中高生の部活の代わりに活動できる
- ・ ミニギャラリーのような展示スペース
- ・ ちょっとしたDIYができるラボ

② 子育てを支援する場所

1) 親のための支援

- ・ 子育ての悩み相談ができる
- ・ 子育てに便利(有用)な情報提供を受けられる
- ・ 託児、一時預かり
- ・ 親同士で交流や意見交換ができる

2) 子どものための支援

- ・ 子どもの居場所や遊び場
- ・ 知育や成長の場
- ・ 泣いたり騒いでも大丈夫なエリアがある

③ 観光・情報発信の拠点となる場所

- ・ お土産の購入、観光・イベント情報提供

③ 有識者等における方向性の検討

本市を取り巻く社会情勢や政策課題などを踏まえ、建築、まちづくり、公共施設運営、市民参画などの専門家で、施設の方向性などについて検討しました。

意見まとめ

① 施設の方向性

- ・ 人が集まり、活動・交流する場と位置付け、それに必要な機能を取り込む。
- ・ 縦割りの施設配置ではなく、諸機能が融合した空間形成を行う。
- ・ デジタル技術の活用等により、他の施設・機能と結びつき、連携を活性化させるための「情報のハブ」の役割を担う。

② 施設の規模

- ・ 図書館は現状が手狭であり、拡張が必要である。
- ・ ホールは規模の適正化と多機能化が必要である。

③ 市民参画

- ・ 構想段階から設計、整備、運営にわたって市民が主体的に関与する。
- ・ ワークショップ等を通じて将来の担い手となる市民の育成を目指す。

キーワード

市民が
主体的に
活動

デジタル化を
活かした情報
のハブ機能

若者・
親子の
居場所

観光などの
情報発信

④ 社会情勢・政策課題等を踏まえた考察

今後見込まれる人口減少や少子高齢化に対応すべく、様々な市民ニーズに対応できるよう、必要な機能を取り込みながら、過大な規模とならないよう留意する必要があります。

また、新施設は本市の中心部である蒲郡駅周辺に立地することから、日常的に市民が集い、そこを中心にまちづくりが生まれる施設になることが求められます。

集合する機能は、ひとつひとつが独立したものではなく融合することで、相互に利用を促進し合い、新たな交流が生まれることも期待されます。そのほかにも、デジタル技術を活用することで市内の他の施設とつながったり、訪れなくても利用できたりするなど、利便性の向上も見込まれます。

これらにより、市民にとって愛着のある施設となるとともに、これからも住み続けたいくなるようなまちの魅力のひとつとなるような施設を目指します。

2. 市民ニーズの把握

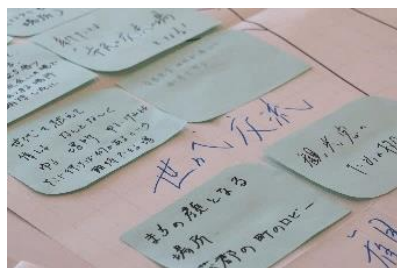
検討を進めるにあたり、市民の想い・ニーズを把握するため、市民ワークショップやアンケートを実施してきました。

(1) 市民ワークショップ

第1回 ワークショップ

開催日	令和4年11月5日(土)
テーマ	こんな蒲郡にしたいナ ~希望と不安を分かち合おう~
参加者	60名

市民フォーラム『これからの公共施設を考えよう!』と合わせて開催し、グループワークでは「こんな蒲郡にしたいナ」といったテーマで、これからの蒲郡市のまちづくりやプロジェクトにおける「希望」や「不安」について意見を出し合いました。



主な意見（希望）

- ・新たな“市民交流の場”となる場所
- ・そこに行くと誰かがいて、心温まる何かがある場所
- ・子どものはしゃぐ声が絶えず聞こえる場所
- ・子育てをするお母さんたちが交流できる場所
- ・ものづくりができるラボがあるとよい
- ・学生が安らげて楽しめる場所が欲しい
- ・「遊び」と「共創」の場を作りたい
- ・まちの出会いの場であり、情報が集まる場所
- ・飲食もおしゃべりも可能な図書館
- ・子どもたちが誇りをもつことができる

主な意見（不安）

- ・相談できる人や場所が少ない
- ・静かな場所とおしゃべりの場所のすみわけできるか
- ・民間とのコラボを期待したいが、誘致できるか不安
- ・柔軟な運営ができるのかが疑問
- ・駅周辺だと駐車場がどうなるのか

第2回 ワークショップ

開催日	令和5年2月25日(土)
テーマ	ビジョンを描く ~こんな施設がいいな~
参加者	44名

様々な写真をヒントに、新しい施設でどのような過ごし方をしたいのかを想像し、「こんな施設がいいな」というビジョンや蒲郡の将来像につながる意見を出し合いました。各グループで共通する意見を整理し、最後に施設のコンセプトを設定しました。



主な意見

- ・家族や友達と子どもを交えてゆっくり食事やお茶ができる。
- ・床に座りながら気軽に交流ができる。
- ・子どもと大人(さまざまな趣味や専門性のある方)の自然な関わりがあると良い。
- ・子どもたちが新しい技術を学びやすい施設がよい。
- ・イベントや周辺学校の音楽や演劇の発表会が催せる多目的ホールがほしい。
- ・自分の集中できる場所があるとよい。
- ・小中高生の音楽の練習、発表ができる。
- ・特産品の販売で市民同士の地域間交流ができる場がほしい。
- ・ざわざわしていることが許容されるような図書館がよい。



主なコンセプト

- ・ずっといたくなる空間
~いつも行きたい・何度でも行きたい~
- ・蒲郡ならではの内と外が交流する空間
- ・子育てしやすく、みんなで学びあえるまち

ワークショップまとめ

- ・共通の意見として、長い時間滞在でき、様々な人と気軽に交流できる施設であってほしいというものがありました。
- ・出会ったことがない人や今までにない情報が集まり、相乗効果で新たな体験を通して知識を得ることができる場所、抱えている悩みを相談できる場所、日頃の練習の成果を発表できる場所を望む声もありました。

(2) 市民アンケート

令和5年3月から5月にかけて、①無作為抽出した16歳以上の市民、②市内中学2年生の保護者、③市内中学2年生、④市内3県立高校の2年生を対象にアンケートを実施しました。

アンケートでは、「市民の居場所、活動拠点となる場に必要なこと」「居場所・活動拠点でやりたいこと」を選択式で、その他を自由記述式で伺ったところ、次のような結果になりました。

選択式の回答

	居場所・活動拠点に必要なこと	居場所・活動拠点でやりたいこと
無作為抽出	<ul style="list-style-type: none"> ①気軽に利用できる ②目的がなくても訪れたいと感じる ③自由な利用が可能である ④人が集い、まちの活力に繋がる ⑤行けば何かあると期待できる 	<ul style="list-style-type: none"> ①くつろぎやすさを感じ、長い時間滞在したい ②健康増進のための運動がしたい ③講座、研修、体験ワークショップに参加したい ④子どもを連れて遊びたい ⑤多世代交流がしたい
中学生保護者	<ul style="list-style-type: none"> ①気軽に利用できる ②自由な利用が可能である ③目的がなくても訪れたいと感じる ④親子で利用しやすい ⑤人が集い、まちの活力に繋がる 	<ul style="list-style-type: none"> ①くつろぎやすさを感じ、長い時間滞在したい ②多世代交流がしたい ③講座、研修、体験ワークショップに参加したい ④子どもを連れて遊びたい ⑤健康増進のための運動がしたい
中学生	<ul style="list-style-type: none"> ①気軽に利用できる ②自由な利用が可能である ③目的がなくても訪れたいと感じる ④年齢、国籍、障がいのあるなしに関わらず誰でも利用できる ⑤若者が利用しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ①くつろぎやすさを感じ、長い時間滞在したい ②多世代交流がしたい ③デジタル化し効率的に利用したい ④健康増進のための運動がしたい ⑤日本人と外国人が交流したい
高校生	<ul style="list-style-type: none"> ①気軽に利用できる ②自由な利用が可能である ③若者が利用しやすい ④目的がなくても訪れたいと感じる ⑤年齢、国籍、障がいのあるなしに関わらず誰でも利用できる 	<ul style="list-style-type: none"> ①くつろぎやすさを感じ、長い時間滞在したい ②夜間に利用したい ③多世代交流がしたい ④デジタル化し効率的に利用したい ⑤料理がしたい

※優先順位1～3位を回答した合計で多い順に記載

自由記述の回答

属性	市民の声・意見（抜粋）
50代 女性	大きな図書館がほしい。 <u>明るいスペースでゆっくりできる場所。</u>
50代 女性	他市から、来たくなるような施設にしてほしいです。 <u>センスのいいものを。</u>
40代 男性	駅周辺に若者・学生にとって魅力的な施設が乏しい。彼らが行きたくくなるような場であると同時に、起業のきっかけとなるような一定期間の店舗支援を行うなど、市の <u>未来に投じる活性化の原点</u> となる場所にすべきだと思います。
70代以上 男性	ここに来たら何か得られる場所にしてほしいし、 <u>蒲郡のシンボル</u> として他都市の人も行ってみたいと思われる施設であってほしい。
30代 男性	市民がつい用はなくても、ふらっと立ち寄り、やっている講座を覗けて、少しやってみようとなる <u>開放的な雰囲気</u> の施設がいい。
40代 男性	AIの発達、働き方の多様化を見据え、 <u>デジタルデバイスを充実</u> させてほしい。
高校2年生 女性	<u>話しながら勉強できる場</u> にしてほしい。
40代 女性	子どもが未就園児や保育園の時、 <u>休日でも屋内で遊べる、飲食もできるような子育て支援センター</u> のようなきれいなゆったりしたところがあったらうれしかったです。
70代以上 男性	子どもから、おじいさんまでが集まれるような <u>広場</u> 。
40代 女性	<u>一時預かり</u> などの託児所もあるといいです。
40代 男性	<u>若く、これからの蒲郡を支える人たちが</u> 、学んだり出会えたりできる施設にしてほしい。
30代 男性	<u>子ども（幼児）の利用しやすい施設</u> にしてほしい。蒲郡には美術館がなく、 <u>アートに触れる機会が少ない</u> ので、そういった場もあると嬉しい。
10～20代 女性	長く利用できる価値のある施設であってほしい。 <u>生活を支える施設</u> として、市民、移住者の就労の機会等にもなってほしい。
50代 女性	地域でつくるC A F Eのようなものを、隣接したらどうかと思う。 <u>蒲郡にあるショッパの食べ物・飲み物を宣伝</u> するような感じのスペースを作る。
中学2年生 男性	まだ蒲郡市にないような、 <u>飲食店やカフェ</u> を設置し、 <u>市民の交流の場</u> となるような施設を創れば、まちの景気が良くなると思います。

アンケートまとめ

- ・いずれの世代でも気軽に長時間過ごせる場所であること、自由な使い方ができること、多世代での交流がしたいといったご意見を多くいただきました。
- ・若者世代からは「誰でも利用できる」「デジタルを活かした効率的な利用」など、多様な人が使いやすいことに主眼を置いた意見が多かった一方で、大人の世代からは「まちの活力につながる」「講座等に参加できる」といった施設を訪れることで自分やまちが得られるものがあることを望む声が挙がったほか、子育て・子どもに関連する意見も多くいただきました。
- ・飲食店を併設し、蒲郡の象徴となる施設になってほしいといったご意見がありました。

(3) 意見のまとめ

市民ワークショップ、アンケートから、市民の皆さんが望む施設像について、機能面から次のように整理しました。

【STEP 1】誰でも使える、日常的に集まれる機能

憩い 自由

- ・本を読んだり、勉強したり、パンを食べたり、喋ったり、**思い思いにくつろぎ、過ごす**ことができる。
- ・活気と共に安らぎの空間もあり、短い時間でもふらっと立ち寄りたくなる**“まちの居場所”**になればよい。
- ・自然を感じ、**カフェなどでゆったり**と飲食を楽しみたい。

【STEP 2】何かをやってみるための機能

集い 交流

- ・世代、障がい、収入格差などを超えて**誰もが集まり、交流し、時間を過ごせる場所**があるとよい。
- ・特産品の販売等で市民同士の地域間交流ができる場がほしい。
- ・子育てをするお母さんだったり、移住してきた人だったり**気軽に交流できる敷居の低い拠点**があると良い。

学び 体験

- ・子ども達がこれまでの媒体だけではなく、**新しい技術を学びやすい施設**だとよい。
- ・高いレベルの技術力、想像力、コミュニケーション力を得るため、各分野に精通した人材に**繋がり・相談できる場所と仕組み**がほしい。

表現 発信

- ・小中高生の誰もが身近に音楽や楽器に触れられるよう**気軽に練習ができ、日常的に発表ができるオープンな環境**がほしい。
- ・市民が主役の市民が**クリエイティブを生み出せる場所**があるとよい。

【STEP 3】未来につながる機能

誇り 愛着

- ・蒲郡のよいところを再認識できるまち
- ・蒲郡に生まれてよかったと思える**まち**になったらよい
- ・誰でも挑戦しやすく、**「共創」**が実現されるまち

3. 関連施設の状況と将来のあるべき姿

本事業に関連する施設の利用状況や課題、令和3年11月に策定した「社会教育4施設のあり方」で示された目指すべき姿、方向性をまとめます。

(1) 図書館

現状と課題

昭和44(1969)年に設置され、建設から50年以上が経過しており、愛知県内の公立中央図書館の中では最も建設年が古い図書館です。施設の老朽化が進んでおり耐震性能がやや不足し、またエレベーター利用時には職員の対応が必要などバリアフリーも十分な状況にはありません。



公共施設の中では多くの市民が利用する施設であり、レファレンスの推進においては令和4年度までに11年にわたって表彰されていることでも知られる施設ですが、現在の施設の規模や利用状況を、望ましい基準と照らし合わせると下表のとおりとなっており、施設規模やサービスにおいても不十分な状況です。

●図書館の利用状況等²

	延床面積	蔵書冊数	うち 開架冊数	1㎡あたり 蔵書数	図書年間 購入冊数
蒲郡市 (R4実績)	2,006 ㎡	284,088 冊	101,942 冊	141.6 冊	11,508 冊
望ましい基準 (人口8万人規模)	3,866 ㎡	374,144 冊	230,263 冊	96.8 冊	13,586 冊
望ましい基準 との差	-1,860 ㎡	-90,056 冊	-128,321 冊	44.8 冊	-2,078 冊

	貸出点数	予約件数	図書館費	資料費	人口あたり 資料費
蒲郡市 (R4実績)	474,553 冊	54,181 件	51,625 千円	20,909 千円	266.5 円
望ましい基準 (人口8万人規模)	789,986 冊	79,671 件	140,389 千円	28,587 千円	430.0 円
望ましい基準 との差	-315,433 冊	-25,490 件	-88,764 千円	-7,678 千円	-163.5 円

目指すべき姿

蒲郡市のすべての市民の誰もが「利用」しやすく、誰もが「愛着」を持ち、新たな発見が生まれる『知の拠点』としての図書館

² 「望ましい基準」は、日本図書館協会『「貸出密度上位の公立図書館整備状況・2019」について』による。その他数値は「日本の図書館2022」による。「図書館費」は人件費並びに臨時的経費を含まない経常的経費、「資料費」は資料購入費をあらわしている。

目指すべき姿に向けての方向性

現在の施設における老朽化に伴う課題を解決するため、また「市民の誰しもの行きやすい場所」というニーズに応えるため、公共交通機関が整備されている地域、主に蒲郡駅周辺エリアへの新設・移転の検討を進めます。

また、市民の居場所となる居心地の良い施設にするため、従来の静寂な場を求めだけでなく、新たな多様な機能(気軽におしゃべりができる場所やカフェなど)を取り込み、魅力的な空間づくりに努めるとともに、新たな AI・ICT サービス等の導入を進め、「知の拠点」としてさらなる高みを目指していきます。

(2) 市民会館

① ホール機能

現状と課題

昭和48(1973)年に設置され、建設から50年が経過しています。施設の老朽化が進んでおり、大ホールにおいては耐震性能がやや不足しています。また、施設内の動線が分かりにくく、スロープなどバリアフリー設備が不十分など、設備上の課題を抱えています。近隣自治体と比べても大規模な施設であり、様々な催事にも対応できますが、人口規模に対して過大な施設であり、規模の見直しを行う必要があります。



1,598席の大ホール、また延床面積は13,233㎡と、いずれも東三河地域最大規模となっています。また長く吹奏楽の活動が盛んで、現在も複数の市民楽団が市民会館や市内施設で活動しています。

●市民会館 ホール稼働率

年度	大ホール	中ホール	東ホール
H30	50.6%	52.6%	58.4%
R 1	52.1%	56.6%	47.2%
R 2	30.7%	31.5%	37.7%
R 3	35.8%	31.6%	36.8%
R 4	42.5%	40.3%	38.5%

人口10万人未満の市設置施設におけるホールの平均稼働率は35.7%((公社)全国公立文化施設協会「令和4年度劇場・音楽堂等の活動状況に関する調査研究報告書」)であり、全国平均程度の利用があるといえますが、大ホールにおいては練習やリハーサル利用も多く、本番利用は概ね4割程度で、舞台設備や客席を使う利用が年間80日程度にとどまっている状況です。

利用用途(令和4年度)については、大ホール文化芸術関連利用が6割程度で、その中でも特に音楽関連が多くを占めています。中ホール・東ホールについては研修、式典等の利用が多くなっています。また、大・中ホールにおける練習利用は吹奏楽利用が圧倒的に多く、本市の特徴「音楽のまち蒲郡」を表しているといえます。なお、各ホールや会議室等の利用の5~7割程度が、利用料金が免除される市の主催・共催事業であり、稼働率に見合う収入が得られていない状況です。

② 貸館機能(生涯学習機能)

現状と課題

大会議室、中会議室、東会議室、談話室、会議室1～3、音楽室、茶室が現在利用可能な施設です。この中で、面積が小さく利用料が安い中会議室の稼働率が最も高くなっています。一方で会議室1～3は、面積も大きく利用料も他の部屋より高いことに加え、2階にあることから稼働率が20～30%台と低い状況です。

音楽室はコロナ禍の影響を大きく受け、現在は利用率が低い状況にありますが、コロナ以前はリピーターに加え、新規利用者も多く、4割近い利用率がありました。一方で、茶室は大きな変動はなく、限られた利用にとどまっています。なお、蒲郡駅周辺には、勤労福祉会館・生きがいセンターといった同様の貸館機能を備えた施設があります。

●市民会館 貸室稼働率

貸室	R4 稼働率
大会議室	43.29%
中会議室	50.43%
東会議室	27.38%
談話室	32.90%
会議室1	30.95%
会議室2	32.79%
会議室3	24.57%
音楽室	16.13%
茶室	11.15%

目指すべき姿

市民が自主的かつ自発的に文化・教養の向上を図り、「新たな交流」と「賑わいの創出」拠点となる施設

目指すべき姿に向けての方向性

「魅せる、触れる、楽しむ」・「学ぶ、創る、発信する」・「憩う、つながる、育む」という3つの重要な視点を設定し、その視点の達成に向けて多様な取組・活動を実施していきます。

また、市民会館がまちの居場所・まちづくりの発信の場となるためには、より多機能化することが必要であると想定され、図書館などの他の社会教育施設が持つ機能や子育て・福祉などの関連機能等の施設との融合も視野に入れ検討を実施します。

(3) その他の社会教育施設

① 生命の海科学館

現状と課題

平成11(1999)年に情報ネットワークセンターとして開館し、建設から20年以上が経過しています。館内には中学校の理科の教科書に写真が掲載されているインカクジラ化石の標本や、直接触れることができる化石や隕石などを展示しています。また、土・日曜日に開催しているワークショップ・サイエンスショーが開催され、人気を博しています。



しかし、館内には科学館機能のほか、生涯学習課の事務室や情報ネットワークセンター時代からのメディアホール等の貸室もあり、科学館としての機能が十分に発揮できていない状況です。また、館内利用においては3階の常設展示室・ミュージアムシアターのみ有料であるため、1階に総合受付、3階に展示室入室受付を設けており、人的コスト高の要因になるという課題もあります。

目指すべき姿

“生命の海”を主軸とする自然科学をベースに、多世代にわたるすべての市民・利用者の、多様な活動の拠点となる科学館

目指すべき姿に向けての方向性

“生命の海”に関する展示の充実を図るとともに、子どもから大人までの多世代を対象にした講演会やワークショップ等の体験活動型の学習機会の充実を図ります。また、科学館で学んだ市民が更に学びを深め、市民同士で知識や教養を交換できるような交流の機会を設定します。

これらの実現に向けては、一定の空間や部屋のスペースが必要となるため、館内レイアウトの再構成とスペース捻出の工夫が必要となります。

② 博物館

現状と課題

昭和54(1979)年に建設し、開館から40年以上経過していることから、老朽化は進んでいますが、耐震性能は比較的高い状況にあります。また、文化保存の展示、収蔵のため、本館部分は二重壁構造になっており、環境管理のための専用設備も盛り込まれています。



市民から寄贈された民俗資料、遺跡調査等の成果を整理した考古・歴史資料の常設展示のほか、年3回の企画展、テーマを設けたコーナー展示や季節イベント等を開催しています。また、博物館には市民の芸術文化の振興のため、一般美術工芸作品等の展示スペースとして利用できるギャラリー(企画展示室)機能も有しています。

令和4年度の入館者数は、右表のとおり32,758人で、ギャラリー開催との相乗効果もあるものの、歴史系の博物館類似施設の平均入場者数約 21,000人(平成30年度文部科学省社会教育調査³:歴史博物館の種類別博物館類似施設数2,858施設)

●博物館の利用状況等

年度	開館日数	入館者数	ギャラリー利用数
H30	299日	35,014人	12,810人
R 1	284日	32,623人	12,926人
R 2	243日	11,911人	2,251人
R 3	299日	21,479人	3,360人
R 4	299日	32,758人	14,024人

を上回っています。また市民アンケートからは、市民の47.3%が博物館を利用したことがなく、58.4%がどのような催しを行っているかわからないと回答しており、PR不足が大きな課題といえる状況となっています。

目指すべき姿

「温故知新」(ふるきをたずねてあたらしきをしる)
体験を通して、蒲郡の歴史と文化を市民が身近に感じる『明るく楽しい博物館』

目指すべき姿に向けての方向性

郷土愛の醸成のため、学校教育の内容と連動した活動や、一步踏み込んだ体験等、蒲郡の歴史・民俗に関する展示・講座等の充実を図り、学びの機会を広げます。また、多くの市民が集う図書館や市民会館などの社会教育施設と連携して、博物館への来館動機となるような出張展示等を行うなど、市民に博物館を身近に感じてもらえるような取組みを実施します。

³ 直近の文科省調査は令和3年度に実施されていますが、コロナ禍における数値であるため、数値が著しく低いことから、その前の調査である平成30年度のデータを参照しています。

(4) 市内の子育て支援機能や観光機能を有する主な施設

先に整理した本市の政策課題や市民ニーズでは、「全市利用型施設におけるリーディングプロジェクト」に盛り込んだ3つの機能のほか、子育て支援や観光に関する機能についての言及も多くありました。そこで、これらの機能を有する公共施設の概要についても整理します。

●子育て支援センター 利用者数

① 子育て支援センター

子育て支援センターは、子育て家庭の親とその子どもが、気軽に集いお互いに交流できる「つどいの広場」です。センターには、保育資格を持つスタッフが常駐し、ゆったりとした雰囲気の中で子育ての疲れを癒したり、悩みを相談することができます。

年度	利用者数
H30	5,584人
R1	7,020人
R2	6,992人
R3	6,333人
R4	8,315人



現在、市内には3か所のセンターがあり、市内中心部には中央子育て支援センター「さんぼ道」があります。

中央子育て支援センターの現在の施設は、旧市民病院の院内保育所を改修したもので、子育て支援に関するサービス拡大や利用者の利便性向上が課題となっています。

② こども家庭センター

こども家庭センターは、令和6年度に従来の子育て世代包括支援センターと家庭児童相談室の両機能を一体化した機関で、保健医療センターに設置しています。すべての妊産婦、子育て世代、子どもを対象に、保健師、子育てコンシェルジュ、家庭児童相談員、助産師、心理相談員など専門的なスタッフによる一体的な相談支援を実施します。

③ 保健医療センター

保健医療センターでは、母子保健事業として、妊産婦・乳幼児健診、育児教室などを実施しています。また、子育てに関する悩みを保健師、管理栄養士、歯科衛生士等のスタッフに相談できます。

④ 児童館

児童館は、地域において児童に健全な遊びを与え、その健康を増進する目的の施設で、中学校区ごとに設置されています。

開館時間は、各館午前9時から午後5時で、日中の遊び場として機能しています。館内には保育士資格をもつスタッフが常駐し、遊びのサポートをします。



⑤ ファミリーサポートセンター

ファミリーサポートセンターは、がまごおり児童館内にある、会員制の組織です。「子育ての手伝いをしてほしい(おねがい)会員」と「子育ての手伝いをしたい(まかせて)会員」により、お互いに助け合いながら、育児と仕事の両立支援や子どもたちの毎日の安全・安心を地域で支えていくことと目的に活動しています。

⑥ 青少年センター

青少年センターは、青少年の非行防止や健全育成を進める目的で設置されたもので、生命の海科学館にあります。小学生から40歳程度までのご本人やご家族の様々な相談に乗る「子ども・若者相談窓口」を運営しています。

⑦ 蒲郡市観光交流センター「ナビテラス」

平成25(2013)年に蒲郡駅北口に設置された観光交流拠点です。案内パンフレットや、インフォメーションカウンターに常駐するスタッフより市内のイベントや観光名所、温泉旅館の情報を取得できます。

施設内では、お土産の注文もできますが併設する蒲郡駅売店と商品の競合を避けるため、後日指定場所への発送となります。



4. プロジェクトの事業予定地の選定

蒲郡市公共施設マネジメント実施計画では、利便性の高い「蒲郡駅周辺」でプロジェクトを実施するとしており、具体的な事業予定地は明記していません。これまでどのような施設を設置すべきかを検討するとともに、蒲郡駅周辺エリアでより利便性が高く、市民ニーズや政策課題に効果的に対応できる立地について検討を進めてきました。

その結果、令和3(2021)年度に民間施設の事業撤退に伴い遊休地になっていた蒲郡駅北の宝町地区(下図参照)が最適であると判断したため、事業予定地に選定し、令和5(2023)年度に用地を取得しました。

<事業実施エリアと周辺施設の位置関係>



事業予定地の選定理由

事業予定地の選定にあたっては、ホール機能、図書館機能及び生涯学習センター機能を設置できる一定の広さが前提となります。

その上で、市民ニーズの実現や政策的課題の解決等を見据え、最適な事業予定地について検討を進め、以下の理由にて事業予定地を選定しています。

(1) 多世代のアクセスしやすさ

駅からの距離が非常に近く、公共交通でのアプローチもしやすいため、自動車の運転ができない子ども・若者世代や高齢者なども訪れやすく、多世代の利用者が集うことが期待されます。

(2) 気軽に利用しやすい立地環境

事業用地は多くの市民の通勤・通学や県立蒲郡高校の生徒の通学の動線に近く、また市役所や勤労福祉館、生きがいセンターなどの公共施設とも近接していることから、これまで市民会館や図書館を利用する機会が多くなかった働く世代や学生などが通勤・通学の途中に利用したり、他の公共施設を利用したついでに立ち寄るなど、気軽に施設を活用したいという市民ニーズへの対応がしやすい立地といえます。

(3) 安全性の向上

現在の市民会館は海沿いに立地していることから、これまで津波や高潮といった災害について懸念するご意見をいただいています。本事業用地は現在の市民会館より内陸に位置し、高潮等のさまざまな災害リスクが軽減されるため、防災の観点では安全性が高い立地条件であるといえます。

上記はいずれも、『立地的な優位性』に拠るといってもできます。

さらに本事業予定地は、現在の図書館や市民会館の立地以上に、まちづくりに大きな影響をもたらす、市の政策課題上の“中心市街地”でもあります。

しかしながら、本事業予定地が位置する駅北側エリアの現状は、東港地区まちづくりビジョン(5ページ)において、「老朽化した施設も多く、蒲郡市の玄関口としてふさわしくない状況にある」と記載があり、まちの活気や明るさに好影響を与えられている状況にはありません。

本プロジェクトが施設の充実・利用面の向上などの期待に応えることにとどまらず、『まちの活気・明るさを取り戻し、市の活性化につながる大きな契機・起爆剤にしていきたい』という市の想いを実現する事業であることも、本事業予定地を選定する大きな理由になっています。



1. 基本理念(目的)

本プロジェクトは、実施計画のリーディングプロジェクトとして、公共施設の再編に伴う複合施設の建設事業の側面だけでなく、中心市街地の活性化に寄与すること、市民の新たな発見・つながりを生み出すこと、さらに市民が市への誇り・愛着を育むこと等が求められる、市の将来にも大きな影響・効果をもたらす重要な事業であるといえます。

そのため本プロジェクトにおいては、行政側がサービスを提供し、市民がそのサービスを楽しむといった従来の公共施設の形態ではなく、市民が気軽に集い、ふれあい、にぎわうことを、市民一人ひとりが自ら生み出し、共に創ること = 『共創』を基本理念に定め、心豊かな暮らしの形成～ウェルビーイング～につなげていくことを目指します。

2. 新たな施設が担う役割

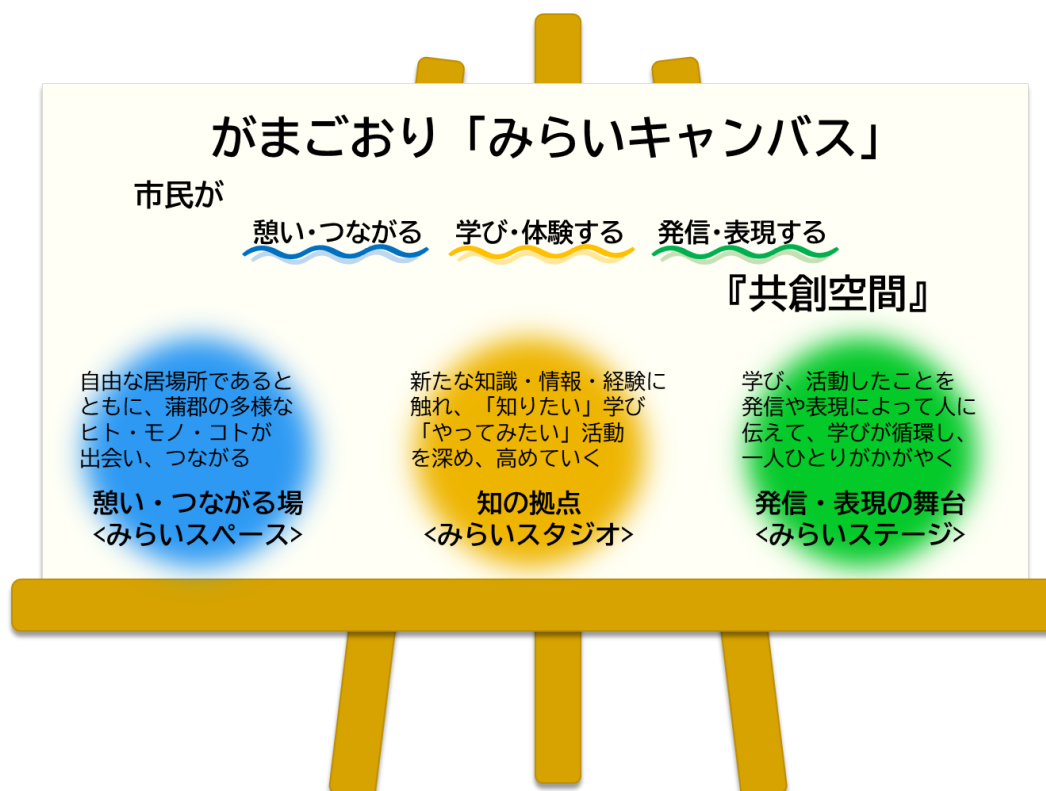
(1) 施設のコンセプトと役割

基本理念の実現には、「いま」を快適または刺激的に過ごせて、さらに市民一人ひとりがここで夢を持って「みらい」を描ける施設となることが望まれます。

市民が「いま」と「みらい」の自分を描く場となるこの施設を「キャンバス」に見立て、“がまごおり「みらいキャンバス」”を施設コンセプトとします。

また、幅広い市民の「いま」と「みらい」のニーズに応える施設となるため、「憩い・つながる場(みらいスペース)」「知の拠点(みらいスタジオ)」「発信・表現の舞台(みらいステージ)」という3つの基本的な役割を設定します。

3つの役割が互いに作用し融合・循環することで、人々の生活をさまざまに彩り、市民自ら新たな文化や学びを生み出す「共創空間」の構築を目指します。




(3) 蒲郡市の「学びの循環」システム


(1)・(2)にも記したとおり、「憩い・つながる場(みらいスペース)」・「知の拠点(みらいスタジオ)」・「発信・表現の舞台(みらいステージ)」の3つの役割は、それぞれで役割を果たすだけでなく、有機的につながり、学びの循環を生む役割を担うものとしています。

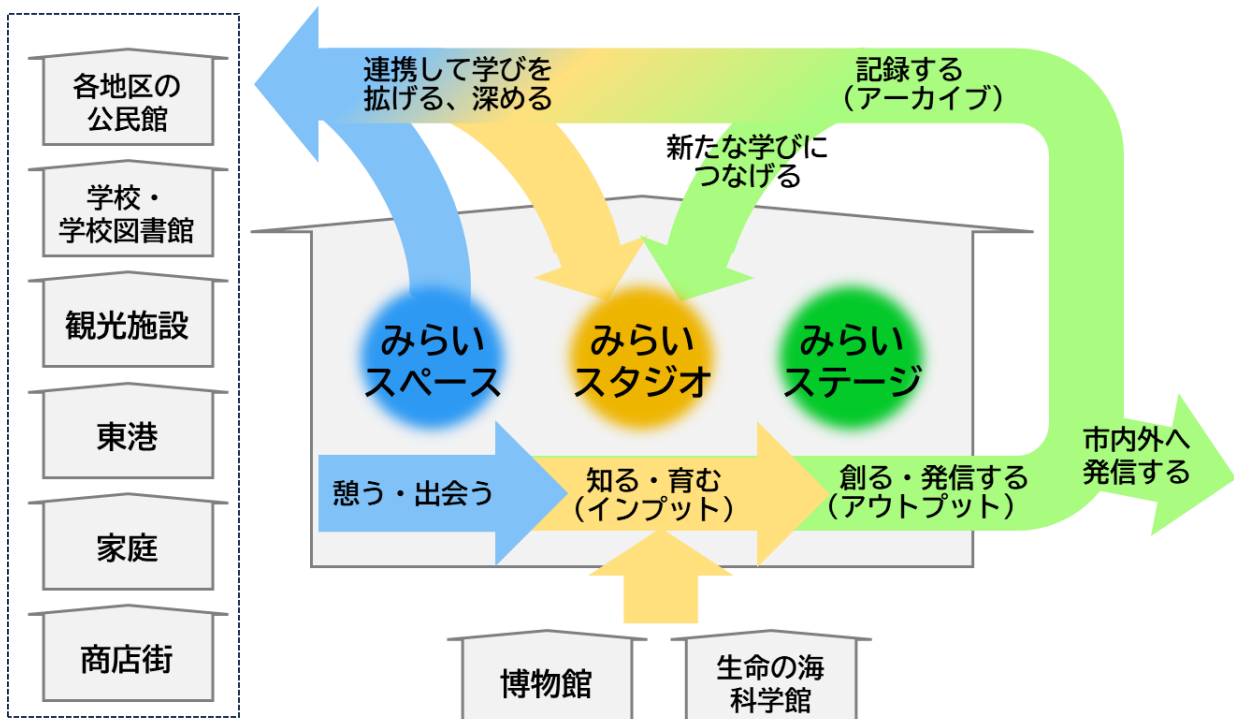
ここで様々な人や学び・活動などに「出会い」、自分が関心を持ったことについて深く「知り」、活動を「育む」という個人や少人数での活動が、「発信・記録」することで蒲郡市の知見となり、ひいては蒲郡市の歴史や個性となります。

それこそが「共創」であり、「ウェルビーイング」につながるものとして、人や学びとの出会いの場をつくるとともに、発信・記録を促進します。

学びの循環イメージ

 人や情報と**出会う**→新たな学びを**知る**、活動を**育む**
 →**学び**、**活動**したことを自分らしく**発信する**
 →発信したことを**記録**し、新たな**学び**につなげる

 他施設と連携して、学びと**出会う場を拡げる**、学びの**内容を深める**
 →より深く**学び**、活動を**育む**
 →これまでの学びを**発信**、**記録**し、新たな**学び**につなげる





Ⅲ 新施設の基本機能（施設計画の概要）



新施設に設置する機能及び各機能の方向性や連携のイメージ(施設計画の概要)についてまとめます。なお、具体的な導入設備や規模等については、この施設計画の概要に基づいて、今後の基本計画で決めていくことになります。

1. 施設全体

できる
こと

みらい
スペース

- ・バリアなく、安心・安全に楽しめる
- ・飲食したり、小さな子どもと遊んだりできる
- ・ひとり、グループ、親子利用など思い思いに過ごすことができる

ゆとりある空間づくりを大切にし、訪れやすく、敷居の高くない、市民の誰もが心地よく憩うことができる“サードプレイス”⁴となることを目指します。

サードプレイスになるためには、外観や内装のデザイン、椅子や机の配置等で居心地良さのバランスを考慮するとともに、目新しさのある情報の発信、軽食を楽しめるオープンカフェ、親子の居場所となる遊び場機能、利用者等の託児サポート等の機能の盛り込みを検討し、何度も訪れたい魅力ある施設づくりに努めます。

また、ゆとりのある空間づくりを大切にしながらも、デジタル化できるものは積極的にデジタル化を進め、市民が求める情報やサービスを得られるような拠点にしていきます。

具体的なイメージ

- 図書館や市民会館を利用してこなかった若者が、デザインの良さや先進性ある情報やイベントの発信により、訪れたいような魅力ある施設とします。
- 親子で訪れやすい場所となるように、一時預かり・託児機能の導入、子どもの遊び場、育児相談窓口など「子育て支援センター機能」^{*}の設置を目指します。
- 高齢者などが家から出て日中を過ごす場所として、来館者同士の日常を感じ合いながらも、自分の時間をゆっくり過ごせる居心地の良い空間とします。
- 外国籍の市民や障がいのある方も気軽に利用できるような、ダイバーシティ(多様性)を意識した施設づくりを進めます。
- 市民が集まり、憩い、くつろぐ場とするため、多様な過ごし方に応じた家具の配置や、カフェや小規模な物販機能の導入を検討します。
- 市民のさまざまな活動やイベントの情報発信拠点となるため、デジタルサイネージ等のデジタル技術の導入を進めます。また Wi-Fi やオンライン配信など、場所ごとのニーズに合わせた通信や配信のための設備の導入を検討します。

^{*}子育て支援センターは、現在運営している中央子育て支援センター(八百富町)に類似する機能であり、本施設への機能移転を見据えますが、単なる機能移転のみに留まらず、他の施設とも連携しサービス拡大も視野に入れて検討を進めていきます。

⁴ 「サードプレイス」とは、アメリカの社会学者レイ・オルデンバーグが提唱した、自宅(第1の場所)や学校・職場(第2の場所)でもない、居心地の良い「第3の場所」が必要であるという概念のことです。ストレス社会において、ゆったりとリラックスできる場所を持つことで、責任感などから開放され、人生の様々な面でメリットがあるとされています。

2. 図書館機能

できる こと	みらい スペース	<ul style="list-style-type: none">・声を出して本を読んだり、友達と一緒に勉強したりできる・ひとりで、グループで、ゆったりくつろぐことができる・学校や学校図書館と資料連携して授業や資料が充実する
	みらい スタジオ	<ul style="list-style-type: none">・静かに本が読めたり、学習支援が受けられたりできる・さまざまなメディアで最新情報や地域情報を得られる・専門的な調べ物や、仕事に役立つ情報が得られる
	みらい ステージ	<ul style="list-style-type: none">・蒲郡のヒト・モノ・コトを記録できる・学んだことを人に教えられる・蒲郡や施設の情報を発信する

これまで社会教育施設として、市民の学びや知的活動の支援を担ってきた図書館ですが、市民ニーズから「ゆっくり過ごせる場所」や「居心地の良い空間」に加え、「賑わい・交流が生まれる場」、「創造・発信ができる場」、そして情報拠点として「蒲郡をPRする場」など、これまで以上の役割が期待されています。

新施設においては、これまで担ってきた“知の拠点”としての役割のみならず、多様な閲覧環境やくつろぎの空間による、にぎわいや交流の場を創出することも重要な役割とします。また、ここに来れば蒲郡をもっと好きになれる情報等を提供することで、市民の蒲郡市への愛着心の向上につなげていきます。

そして、従来までの図書館では読書や調べものなど、インプットする学びを目的に活用されることが多くありましたが、本施設においては複合施設として他の機能と融合することにより、インプットされた知識について、活動などを通じてアウトプットする学びができる環境を構築し、蒲郡の新たな文化を生み出す“みらいにつながる知の拠点”を目指します。

具体的なイメージ(実施していきたいこと)

現図書館の課題を解決する「“基本的な役割”の拡充」と、これから目指す“みらいにつながる知の拠点”に向けた「“新たな役割”の展開」という2つの視点を満たすことを念頭に置いて検討を進めます。

① “基本的な役割”の拡充

🌟 現在の蔵書冊数からの拡充を見据えつつ、新しい資料がいつもあり、新鮮度が高い開架とします。また、新鮮度を保つための蔵書の数量と、保管資料を適切に保有できる蔵書の数量とのバランス等にも考慮しつつ、新施設における適正な蔵書数については、今後の基本計画等の詳細検討にて決定します。

※電子図書等のデジタル関連の取組は推進しつつも、本・雑誌等とのリアルな出会いは尊重していきます。

🌟 開架スペースなど、本とのふれ合う空間はゆとりあるものとし、個別学習席の拡充を図ります。

⇒現施設の手狭な空間の解消、こどもやバリアフリーを意識した配架の取組等

(つづき)

- レファレンスサービスをさらに利用しやすい環境構築や周知方法の実現、専門書の拡充に加え、AIなどの技術も見据えた検討を進めます。
- デジタルアーカイブを含めた多様な情報媒体の拡充や、ICT を活用したセルフ貸出返却機能や本の IC タグ化などの導入をすすめ、図書館 DX を推進します。
- 郷土資料拡充及び利活用や、市内情報発信の強化を目指します。

② “新たな役割”の展開

- 誰もが訪れ、交流しやすいサードプレイスとなる施設とするため、集中して読書や勉強をしたり、複数人で話しながら学習したりといった、思い思いの使い方を実現する空間を提供し、多様な学びに応える知の拠点とします。
- 生涯学習センターの各室に関連分野の書架を近接させるなど、施設特性を活かした配架を採り入れ、活動・体験を通じた創造的な学びを提供します。
- 本のICタグ化の推進により、従来のルールに捉われないような配架を検討し、施設内で行われる様々な活動や多様なライフスタイル・ライフステージに寄り添うような配架を目指します。
⇒ 季節・トレンドや生涯学習活動に沿ったテーマ配架等
- 施設内外の市民の活動や成果による、蒲郡市に残すべき情報・データをアーカイブし続けることにより、「蒲郡コンテンツ」や「蒲郡の文化」の蓄積・共有の一翼を担います。

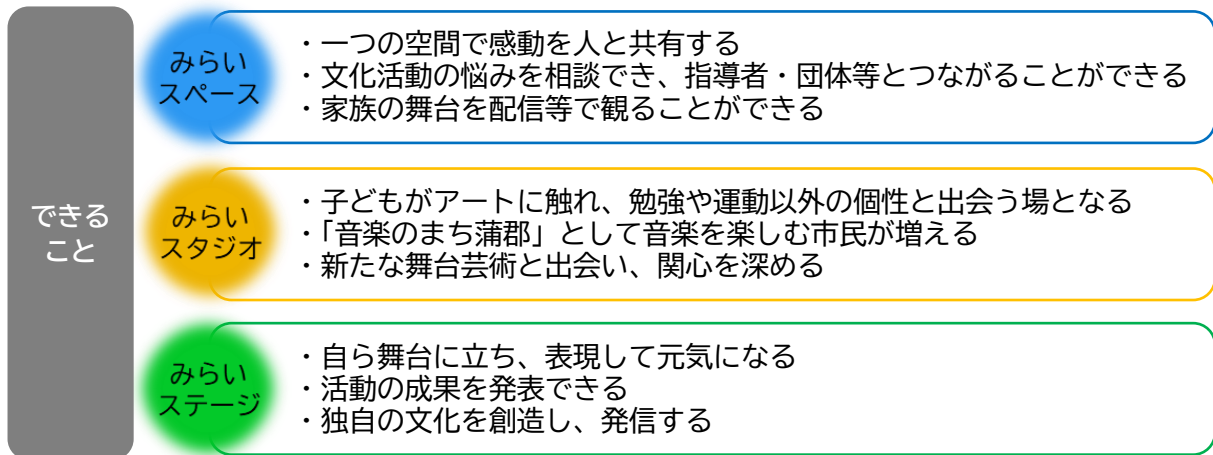


誰かと過ごす／ひとりで過ごす



活動と本をつなげる

3. ホール機能



市民利用が中心のホールとして、市民が使いやすい規模、設備を備えます。その上で愛好者だけが訪れる場ではなく、日常的に本施設や周辺エリアを訪れる市民が気軽に鑑賞、体験に参加できることを意識した事業展開を行い、心理的に開かれたホールとします。

特に蒲郡の未来を担う子どもに質の高い文化芸術の鑑賞・体験機会を提供し、多様な学びや異なる価値観への気づきを得て、心豊かで互いを思い合える人づくりに寄与する場となることを目指します。

また「音楽のまち蒲郡」として、音楽をはじめとする文化芸術活動を振興し、自ら舞台に立って表現する市民を増やすための取組を推進します。

これらの取組を通じて、市民の様々な知的ニーズを満たす“知の拠点”の役割だけでなく、情報を集約して発信する“表現・発信の舞台”も担えるホールとします。

具体的なイメージ(実施していきたいこと)

- 市民、特に未来を担う子どもたちが質の良い文化芸術に触れる機会を創出するため、子どもや親子連れが鑑賞・体験しやすい環境づくりに考慮します。
- 図書館や生涯学習センターと連携し、市民に知ってほしい学びの提案・文化芸術などの市民ニーズの把握に努め、効果的な公演、講演会、講習会、研修会などが開催されるホールを目指します。
- メインホールの客席数については、市民利用における使いやすさと、市内で行われる行事等の必要席数などを踏まえた適切な客席数として、1,000席程度を目安に、敷地条件などを考慮し決定します。
- 吹奏楽など、大勢の出演者が舞台に上がる利用が多いことを考慮し、舞台及び舞台袖は十分な広さを確保します。
- 市民の文化芸術活動を支える機能として、メインホールの舞台同等の広さを持ち、ミニコンサートなどが実施可能な多目的ホール(兼リハーサル室)を設置します。また、防音の練習室、ロビーでのミニ発表・展示機能などの導入を検討します。
- リハーサル室や練習室等については、図書館、生涯学習センター機能と連携しやすく、訪れやすいよう、建築的にも開かれた施設となるように留意します。



大ホールのイメージ



開かれたホールの利用のイメージ

4. 生涯学習センター機能

できる こと	みらい スペース	<ul style="list-style-type: none">・博物館・科学館や地区公民館等と相互連携した学びが得られる・市内でさまざまな学び、活動をする人をつないでくれる・子育てや将来についての課題・悩み相談ができる
	みらい スタジオ	<ul style="list-style-type: none">・食・文化などを通じた世代交流、国際交流ができる・子育て、防災など身近な学びが得られる・大人の学びなおしや新たな生きがいづくりができる
	みらい ステージ	<ul style="list-style-type: none">・最新技術を使ってものづくりができ、発表できる・多様な活動の成果を発表できる・活動や発表を記録し、次の学びにつなげられる

誰もがより良く生きる知恵と力を身に付けるために学習・文化活動を幅広く営む場である「生涯学習センター機能」を新たに導入することで、市民の多様な学習機会をこれまで以上に創出し、また市民の生涯学習に関する講座・体験活動の実施の支援を行います。

具体的には生涯学習センターが中心となり、地域・企業等と連携する取組を活性化させる役割を担ったり、市民同士の生涯学習の輪・繋がりを広めるための活動発信を支援したり、また市内の様々な講座などの情報を整理・集約し、市民に分かりやすく提供する情報のハブ機能を備えること等で、市民の生涯にわたる学びを支え、生涯学習推進のための新たな取組を実施します。

さらには、「生命の海科学館」や「博物館」との連携を図ることも視野に入れ、科学館・博物館のイベントや催事を本施設で行うことができるような諸室・設備の導入も検討し、施設の循環利用の促進についても検討を進めていきます。

また、生涯学習センターには、社会教育推進のため中央公民館機能も含んでおり、蒲郡市内の各地域にある地区公民館の指導・支援をしつつ、公民館同士の連携強化を図ります。さらに地区での学びと生涯学習センターの事業を繋げ、多様な生涯学習の展開及び市内全域の社会教育活動の充実を目指していきます。

具体的なイメージ(実施していきたいこと)

- 創作活動室(美術・工作等)、調理室、和室など、さまざまな機能を持つ諸室を整備し、市民の多様な学び、活動を支援するとともに、科学館や博物館など他館での取組を知るなど、市内で行われている学びを紹介し、館内外で学びが循環する場となるようにします。
- ワークショップなど人々が交流しながら学ぶことができる、オープンスペースを整備します。

(つづき)

- 現在博物館にあるギャラリー機能を移設し、生涯学習や市民活動、文化芸術活動の成果を発表したり、図書館の企画展示を実施できるギャラリースペースを整備します。
- 市民の生涯学習活動の支援・相談窓口を設置し、多様な学習環境の提供や生涯学習活動の具体化に向けた支援を行います。また、ボランティアやまちづくり等の多様な活動をしている団体やその活動を支える中間支援組織などとの連携を図り、市民の生活の豊かさの向上を目指します。
- 講師の育成や活動を発信する人の発掘に努め、市民の多様な学びのハブ機能となることを目指します。
- 館内の共用部を有効活用し、サーキュラーシティをはじめとする市の取組などを紹介するコーナーを点在させるなど、蒲郡で行われていることを気軽に目にすることができ仕掛けづくりを検討します。

5. その他考慮すべき基本的な機能

本市の中心市街地付近に位置する公共施設として、さまざまな災害等を想定し、防災に関する適切な機能を備えておくことは、当然に有すべき基本性能として必要と考えています。

また、サーキュラーシティ、ゼロカーボンシティの推進のため、環境配慮機能として省エネ技術や再生可能エネルギー技術の活用等が求められているほか、整備後の維持管理のしやすさや将来予想されるコスト縮減、また運営に関するコストの配慮等にも十分に検討する必要があり、持続可能な社会を見据えた「施設づくり」を目指していきます。

これらの考慮すべき基本的な機能については、今後より詳細に施設機能を整理する基本計画の策定段階において、具体的な検討を進めていきます。



IV 「みらいキャンパス」の整備に向けて



1. 施設規模のイメージ

前章の施設計画の概要に基づき、みらいキャンパスの施設規模を整理すると下表のとおりとなります。施設規模については、現施設における課題解決のため、「図書館スペースの拡充」⁵、「ホール機能の適正化」⁶の実行をはかるとともに、従来の施設機能にはない「生涯学習センター」・「子育て支援機能」など新たな機能の追加すること、また“みらいスペース”としてゆとりのある空間やくつろぎの場等を設定することを踏まえ、施設の各機能を積上げ、概算面積を算定しているものです。

今後、建物配置や機能動線などのより具体的な施設検討を進める上で、施設規模は詳細に決定していくものですが、現在の同種施設(図書館、市民会館、中央子育て支援センター)の合算した延床面積は15,338㎡であり、公共施設の総量を抑制して将来負担を抑える公共施設マネジメントの観点と、複合施設としての連携効果・使い勝手の良さをしっかり確保することのバランスを勘案し、みらいキャンパスの施設規模については、本構想で算定した「15,000㎡程度」を目安に、更なる検討を次のステップである基本計画に引き継いでいきます。

○施設規模のイメージ【延床面積積上げ表】

施設機能	施設の内訳	概算面積
図書館	開架書庫、閉架書庫、こども図書コーナー、ブラウジングスペース、おはなし室、学習室、バックヤード・作業スペースなど	約 3,000 ㎡
ホール	メインホール、多目的ホール(兼りハーサル室)、楽屋、ホワイエなど	約 4,650 ㎡
生涯学習センター	ギャラリー、創作活動諸室、調理室、会議室、和室、など	約 900 ㎡
その他導入機能	総合受付窓口・エントランス、ワークショップスペース、子育て支援センター、一時預かり・託児、カフェ・ショップなど	約 750 ㎡
管理諸室	事務室、更衣室、倉庫、清掃員室、	約 450 ㎡
共用部	廊下・階段の動線及び溜り空間等	約 3,000 ㎡
	空調機械室・電気室等	約 2,250 ㎡
合計		約 15,000 ㎡

※上記施設規模は概算イメージであり、今後のより具体的な施設検討や事業用地及び周辺環境の整理に伴い変更する場合があります。

⁵ 図書館スペースの拡充:【現図書館約 2,000 ㎡】

⇒がまごおり「みらいキャンパス」:「図書館機能」延床面積 約 3,000 ㎡

⁶ ホール機能の適正化【現市民会館ホール客席数の合計約 2,400 席、ホール数 3】

⇒がまごおり「みらいキャンパス」:「ホール機能」客席数の合計約 1,200 席、ホール数 2

2. 建設予定地の条件整理

本施設は、既存の市民会館や図書館の敷地ではなく、JR蒲郡駅北地区の用地(24ページ参照)で整備することから、これにより新施設が完成するまで現在の図書館、市民会館の運営が継続でき、整備期間中に学びや文化芸術振興の機会が中断される期間を最小限に抑えることが可能です。

また、建設用地については現在取得済の用地のほか、施設建設や道路環境整備の上で必要な用地と判断される土地については、引き続き取得に向けての検討を進め、基本計画において建設事業地を確定できるよう努めていきます。

敷地概要

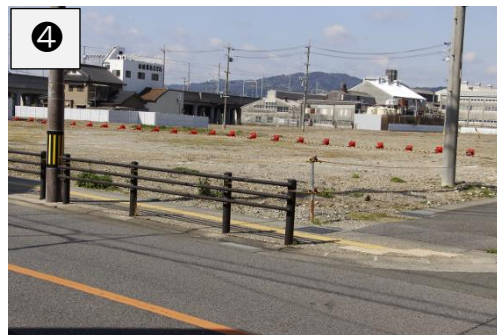
所在地	蒲郡市宝町の一部
事業地面積	14,869 m ² (取得済)+ α (取得検討中につき未確定)
用途地域	商業地域(事業用地の東側)及び準工業地域(同西側)
容積率	商業地域部分:400% 準工業地域部分:200%
建ぺい率	商業地域部分:80% 準工業地域部分:60%
防火地域	準防火地域
都市計画等	東三河都市計画区域 市街化区域 都市機能誘導区域 土地区画整理事業区域【蒲郡大坪】(用地の一部)
アクセス	蒲郡駅北口から徒歩約4分

敷地図 (色が塗られている箇所)



計画にあたっての留意事項

- ・ 事業予定地の東側接道は、愛知県道369号蒲郡停車場線がありますが、駅からのアクセスしやすさや周辺道路の交通渋滞を考慮し、敷地北側もしくは南側道路からの搬入経路等を想定します。また、必要に応じて周辺道路の拡幅や歩道整備などを検討します。
- ・ 徒歩や自転車で来館する方、車で来館する方が安全かつスムーズに来館できる動線を整理します。
- ・ 敷地内で確保できる駐車場台数は限られることから、駐車場のあり方については引き続き検討します。
- ・ 敷地周辺には一般民家等があることから、建物の日影や圧迫感への配慮から一定の距離を離して建物を設置するなど、周辺環境についても留意し検討を進めます。
- ・ 今後、開発申請が必要な可能性も含んでいることから、滞りなく円滑な許可申請の進行するよう留意します。





V 事業手法の検討



1. 事業手法の検討に当たって優先すること

設計・施工・維持管理・運営の各業務の発注方法や契約方法(以下、「事業手法」という。)にあたっては、次の点を重視して最適な事業手法の検討を進めていきます。

(1) 一体的かつ専門的な運営の実現

複数の機能が一体的に、かつ専門性をもった組織により運営されることを最優先事項とします。交流・学びの機会を幅広い視野で、かつ多面的に提供し、市民等の積極的な発信を促し、基本理念やコンセプトを実現しうる運営組織とします。

(2) 市の施策の実現、市内施設・教育機関等との連携しやすさ

館内にとどまらない交流・学び・発信の促進のため、本施設だけでなく市内他施設・機関等との連携や、市施策の実現主体としての取組ができるようにします。

(3) 市民参加、市民主体の推進しやすさ

市民意見を反映する機会や市民参加の仕組みを講じるとともに、市民がそれぞれのやりたいことを叶え、学び合い、教え合う環境が持続的に実現するようにします。

(4) 工期の確実性の向上

早期開館が望まれる施設であるため、設計・施工期間の短縮を図るほか、入札不調・不落を避けるなど、より円滑に整備が進められるよう努めます。

2. 主な事業手法の整理

本事業において導入可能性がある事業手法は次のとおりです。

(1) 整備を伴う手法

官民連携手法	概要	実施主体				
		資金調達	設計	施工	維持管理	運営
従来手法	施設の設計、施工等をその都度仕様発注する手法。	市	設計者 (委託)	施工者 (委託)	直営または指定管理者	
D B (Design-Build)	施設の設計、施工を一括して性能発注する手法。	市	民間事業者 (JV)		直営または指定管理者	
DBM (Design-Build-Maintenance)	施設の設計、施工、維持管理を一括して性能発注する手法。	市	民間事業者 (SPC、JV等)			直営/ 指定管理者
DBO (Design-Build-Operate)	施設の設計、施工、維持管理、運営を一括して性能発注する手法。	市	民間事業者 (SPC、JV等)			
PFI【BTM】 (Build-Transfer-Maintenance)	施設の設計、施工、維持管理を一括して性能発注する手法であり、民間が資金調達を行う。	民間事業者 (SPC)			直営/ 指定管理者	
PFI【BTO】 (Build-Transfer-Operate)	施設の設計、施工、維持管理、運営を一括して性能発注する手法であり、民間が資金調達を行う。	民間事業者 (SPC)				
ECI (Early Contractor Involvement)	施設の設計段階における技術協力を受けたのち、実施設計完了後に施工を発注する手法。	市	設計者	民間事業者		直営または指定管理者

(2) 運営・維持管理の手法

官民連携手法	概要
直 営	施設の運営、維持管理について市職員を配置し、市が主体的に運営を行う手法。 (維持管理など一部業務を必要に応じて委託する)
指定管理者制度	施設の運営、維持管理について民間事業者を指定し、性能発注にて包括的に管理を代行させる手法。一般的に5年程度の指定期間となることが多い。PFI、公共施設等運営事業と併用される場合もある。
P F I 【O】 (Operate)	施設の運営、維持管理について民間事業者と長期契約等により一括発注及び性能発注にて実施する手法。一般的に指定管理者制度よりも長期(10~15年)の契約期間となることが多い。
公共施設等運営事業 【コンセッション】	利用料金を徴収する施設について、市が施設の所有権を保有したまま、民間事業者が運営権を取得して裁量の自由度を拡げ、運営、維持管理を行う手法。
包括的民間委託	施設の運営、維持管理における複数業務を複数年度にわたって性能発注にて包括的に業務委託する手法。

3. 事業手法の決定について

基本構想では、本施設の事業手法の選択にあたっては優先すべき事項と事業手法の確認にとどめ、今後の基本計画等にて施設のあり方や運営方法等を具現化したのち、改めて必要な検討、調査を実施したうえで事業手法を判断します。

事業手法の判断においては、V-1.(39ページ)に記した優先事項を踏まえ、民間事業者の事業参画機会やコストメリット等を考慮していきます。



VI 今後のスケジュール



本プロジェクトは、公共施設マネジメント実施計画において、令和13(2031)年度までに実施する取組とされています。その取組実現のため、現在想定しているスケジュール・事業工程のイメージについては、下記の通りです。

なお、下記のスケジュール・事業工程はベースにあるものの、本プロジェクトについては市民の期待も高いことから、早期整備に向けて迅速な検討を進めていきます。また、より良い運営も視野に入れ、運営予定者が早期より検討や準備に参画するためのスケジュールや工程についても検討しています。

スケジュール・事業工程のイメージ

年 度	スケジュール（主な業務）
令和6(2024)年度～	基本計画等の検討・策定／事業用地の整理
令和8(2026)年度～	設計業務
令和10(2028)年度～	建設工事／運営準備 等

※上記スケジュールは、基本構想段階での予定であり、事業用地の整理、社会情勢の変化、事業手法の決定等により、変更が生じることがあります。

プロジェクトの詳細スケジュールについては、基本計画策定段階で確定する予定です。



1. 市民フォーラム・ワークショップ

(1) 開催概要

① 市民フォーラム

1) 第1回市民フォーラム

開催日 令和4(2022)年11月5日(土)

会場 蒲郡商工会議所 イベントホール

参加者 79人(オンライン参加を含む)

内容 ・基調講演「これからのまちと公共施設を考えよう」

弘前大学 北原啓司特任教授

・シンポジウム

弘前大学 北原啓司特任教授 名古屋大学 恒川和久教授

愛知工業大学 益尾孝祐准教授 蒲郡市長 鈴木寿明



2) 第2回市民フォーラム

開催日 令和5(2023)年1月21日(土)

会場 蒲郡市民会館 東ホール

参加者 89人(オンライン参加を含む)

内容 ・基調講演「文化香る蒲郡の公共施設を考えよう」

名古屋大学 清水裕之名誉教授

・シンポジウム

名古屋大学 清水裕之名誉教授 名古屋大学 恒川和久教授

県立長野図書館前館長 平賀研也氏 蒲郡市長 鈴木寿明



② ワークショップ

1) 第1回ワークショップ

開催日 令和4(2022)年11月5日(土)

会場 蒲郡商工会議所 イベントホール

参加者 48人

内容 6グループに分かれたグループワーク

テーマ「こんな蒲郡にしたいナ ～不安と希望を分かち合おう～」



2) 第2回ワークショップ

開催日 令和5(2023)年2月25日(土)

会場 蒲郡市民会館 会議室

参加者 43人

内容 6グループに分かれたグループワーク

テーマ「ビジョンを描く ～こんな施設がいいな～」



(2) 開催結果

次ページ以降の「ニュースレター」をご確認ください。

【第1回市民フォーラム・ワークショップ】

蒲郡市
リーディング
プロジェクト
GAMAGORI leading project

ニュース
レター
vol.01

これからのまちと 公共施設を考えよう！

フォーラム 2022/11/5

1 これからのまちと 公共施設を考えよう！

2023/1/21
文化育る蒲郡の 公共施設を考えよう！

ワークショップ

1 こんな蒲郡にしたいが不安と希望を分かち合おう

2023/2/25
ビジョンを描く
～こんな施設がいいな

2 ビジョンを描く

3 使いこなしを想定してみよう

4 基本理念、基本方針を整理しよう

5

↓

2023 秋 基本計画へ

蒲郡市では、図書館などの機能を兼ね備え、市民の居場所や活動拠点となるような場を蒲郡駅周辺に整備する「リーディングプロジェクト」を進めています。

新しい公共施設を描くには市民の声が必要です。そこで、市民フォーラムと連続ワークショップがはじまりました！

★

2022年11月5日に、第1回のフォーラムとワークショップが開催されました。前半の市民フォーラムでは北原啓司先生（弘前大学特任教授）より八戸ポータルミュージアム「はっち」など、市民参加による公共施設の事例をご紹介いただきました。市長を交えたシンポジウムを経て、後半は市民・学生・専門家など約60人によるワークショップを行いました。

リーディングプロジェクトに対するたくさんの希望や不安を分かち合い、熱気にあふれた回となりました。

当日の流れ

1 市長からの呼びかけ



「市民の皆さんでまちづくりを」との市長からの呼びかけではじまりました。

2 北原先生の基調講演



「[空間]を「場所」にするまち育て」と題して北原先生よりご講演いただきました。

3 座談会



北原先生の話を受けて、恒川先生(名古屋大学)、益尾先生(愛知工業大学)、市長を交えて蒲郡でも応用したい点について話し合いました。

4 グループで自己紹介



休憩後グループに分かれ、各自基調講演での気づきを発表しながら、自己紹介をしました。

5 希望と不安の葉っぱ



各自が新しい公共施設についての希望と不安を考え、葉っぱ型のカードに記入しました。

6 グループ共有



カードに書いた内容を各自発表し、グループの中で共有しました。

7 希望の木・不安の木



希望と不安の葉っぱを模造紙に描かれた木に貼り付け、希望の木と不安の木が完成しました。

8 全体共有



最後に6グループが集まり、全体で共有しました。

基調講演

「空間」を「場所」にするまち育て

北原啓司先生（弘前大学特任教授）

北原先生が携わってきた市民参加による公共施設づくりについて、プロセスを詳しくお話しいただきました。

事例A

中心市街地活性化を目的とした拠点施設と市民参加（青森県八戸市）

八戸市は15年以上の中心市街地活性化の活動の中で、多様な市民参加の機会を設け、公共施設に限らない市民の「場所」が創出され、多様な人を巻き込む現在進行形の取組を行っている。

① 地域観光交流施設・八戸市ポータルミュージアム「はっち」

「都心地区再生市民ワークショップ」(2004年～)を皮切りに、計画から運営に至るまで市民が関わりつづけている。2006年に基本構想が立てられ2011年2月に開館。市の直営施設であり、会所づくり・貸館事業・自主事業の事業がある。



② 八戸まちなか広場「マチニワ」

「はっち」の向かいの商業ビル閉鎖跡に2018年7月に誕生した「マチニワ」の整備にあたっては、活用検討市民ワークショップが6回にわたって行われた。

事例B

青森市個気象台跡地公園計画「つくだウェザーパーク」

青森市立伊小学校の児童、PTA、町内会関係者、商店街関係者、園がい者、農工会、専門家等が集まり15回のワークショップを行った。対立から創造が生まれる場面が複数あった。その一例は、子どもが「遊具を我慢するから...」と大人と交渉するなど、相手を理解しつつ自分のアイデアを強化する場面であった。



「空間」に人々の想いと、生き生きとした活動が加わると、

そこは、「場所」に変わります。



私が私のために、みんながみんなのために、「公共」を考える機会として、今日のワークショップが始まります。施設への要望ではなく、どういう場所で誰と楽しみたいのか、といった、物語の提案者になりましょう！それは半ば空想的！？かもしれませんが、何度も重ねていくことで、現実になっていきます。

POINT!

ワークショップの醍醐味

- ①自分と違う意見を聞くことを楽しむ
- ②他の人にも聞いてもらい歩み寄る
- ③思ってもみなかった案が生まれる

POINT!

オープン前から私たちの「場所」

「はっち」では建物が完成したら「どう使うか」を市民たちがたくさん話し合ってきたことで、開館後も生き活きた状況が生まれています。みなさんもこれからつくる「空間」の関係人口として、「場所」に育てていくことを楽しみましょう。

POINT!

子どもに学ぶ「だって“私たちの場所だもん”」

公園づくりのワークショップで、ある子どもがゴミは持ち帰ればよいと言って、結果的にゴミ箱の設置をやめました。その後輩たちが学校の敷地でもないのに掃除をしていました。「だって“私たちの場所だもん”」。こんな言葉を言ってみてくださいね。

希望の木

「希望の木・不安の木」に寄せられたつぶやき集です
グループワークでは、リーディングプロジェクトや、今後についての希望と不安を分かち合いました。6グループに分かれて意見を出し合い、グループごとに「希望の木・不安の木」をつくりました。
本通信では、すべての話題を網羅して紹介できるように、全体で整理して掲載しています。

多様な人が交流できる居場所

- ・世代、障がい、収入格差などを越えて、誰かが集まり、交流し、時間を過ごせる場所があるとよい。
- ・ほかの地域の人たちとつながり、一緒に何かできる場所があるとよい。
- ・子育てをするお母さんたちが交流できる場所。
- ・移住してきた人が住みやすいまちになってほしい。
- ・高齢者と子ども、どちらも集まれる場所。
- ・そこに行くのが楽かいて、心温まる何かがある場所。
- ・リタイア後の世代と子育て世代の交流が仕掛けられる場所となるとよい(運営が大事)。
- ・高校生や大学生など若者と一緒に活動(ボランティア)できる場所。
- ・視力聴力の弱った人も楽しめる場所。
- ・足腰の弱った方が歩いていきやすい(足の不自由な方も)場所。
- ・新たな「市民の交流の場」となる場所。
- ・全年齢・市民全員が喜んで利用できる。
- ・外国人と日本人が交流できる場所。
- ・高齢者や障がい者など、普段あまり関わりのない人も、共有できる場所。多様な人同士が交流する(交わる)ことが自然と行われるようになったらよい。
- ・高齢者の職員さんとみんなお友達になったら楽しそう。
- ・図書館などは現在は既存客が多い、若年層の利用機会が増えているとよい。

子育てしやすいまちに

- ・雨の日でも真夏でも遊べる子育て施設。
- ・数十年後の孫が明るく活気に満ちたまちになれるように、次世代を担う子どもたちが誇りを持つことのできる魅力ある素敵な場所。
- ・子どもも大人も「夢」を持てるまち。
- ・子どものはしゃぐ声が絶えず聞こえる場所。
- ・市民全体で子どもを見守る目のあるまち。
- ・子どもに優しく、親子で安心して暮らせるまち。
- ・孫に生まれてよかったと思えるところ。
- ・市内の中に子ども食堂が多くできるとよい。
- ・駅前や便利な場所に、中産生の学習環境を充実させたい。(駅前などお昼に安全便利、他市の学生利用も促し、満足を好きになってもらう)
- ・健都生まれの子供がわくわくする場所があるとよい。走り回ったり、触ったり、遊んだりする遊び場。
- ・子どもが1人でも安心して遊びに行ける場所ができるとよい。
- ・子供がのびのび遊べる室内遊園地が欲しい。

「共創」や「生きがい」がある場

- ・「共創」をコンセプトとした、「学校」が中心となるまちになるとよい。
- ・健都の学びの拠点「健都市民大学」。
- ・市民が主役の市民がクリエイティブを生み出せる場所。
- ・アートやクリエイティブなイベントで若者やクリエイターが活躍でき、住んでいて楽しいまち。
- ・ペアドレントレーニングを発達障がいのあるお子さんがいない人も学べるようになればよい社会になるのかもしれない。
- ・誰でも挑戦しやすいまち。
- ・小さいお店で小さく始める仕事があるとよい。
- ・広い世界に羽ばたき、様々な分野の知識と見聞を得て、いつの日かリターンしたくなるような価値。
- ・健都の魅力に惹かれて移住したくなるようなまちのひとつのプロジェクトになること。
- ・生き物と触れ合うことができる場所がほしい。そこに学生の知識を活かしたシステムが入るとよい。
- ・ものづくりが出来るうらがあるとよい。
- ・みんなが使える図工室のような場所。
- ・自然は文庫融合の素晴らしい切り口。ローカルに、健都ならではの新しい分野が生まれたり、切り口が見れたりできるかもしれない。
- ・学校が終わった後、子どもたちが打ち込める場所があるとよい。(習い事ではなく、大学のサークル活動なイメージ)
- ・「やさしい」「誰でも」だけでなく、「面白さ(ユーモア)」も、それなりにほしい。

無目的にふらっと寄れる居場所

- ・まちに居場所ができる、いつでも気軽にいることができる場所。
- ・ゆとりあるハードとソフトを備えてほしい。
- ・24時間利用できることよい、ゆくりできるとよい。
- ・敷居が低くおつふしやふと立ち寄っただけでも利用できることよい。
- ・みんなが当たり前、気兼ねなくおしゃべりできる空間があるとよい。
- ・学生が安らげて楽しめる場所が欲しい。
- ・世代を越えて集えて、ゆるいけどそこに行けば何かあるという期待できる場所。
- ・とりあえず駅前に行けば何でもできる期待感がある場所。
- ・まちの人が気軽に集まれる場所。モーニングしたり、夜ご飯を食べたり、歌をうたったり、読み聞かせをできるとよい。
- ・夏の暑い日に涼みに行けるスペース、冬の寒い日に溜まれるスペースがあるとよい。
- ・「とりあえず駅前だからガッマに行くか」という場所になることを期待。

※実物は次ページと見開きのため、絵が途中で切れています。

観光客の拠点として

- ・駅を降りてすぐにまちの顔となる場所、蒲郡のまちのロビー。
- ・観光客のための拠点。
- ・観光目当てにもなるような施設になれば good。(蒲郡の今までの施設は常に最先端だった。これからも先を行く施設にしてほしい。それも誇りである。)
- ・1人旅の楽園を目指す。地元の人と交流できる場所があると楽しい。旅人のたまり場。
- ・観光などで市外から蒲郡を訪れる人々と市民の交流が深まる場が増えるとうい。

充実した機能

<日常>

- ・運動する意欲がなくても無意識に動いてしまうような場所。
- ・お昼ご飯も食べられる児童館があればよい。
- ・行政手続きが行えるとうい。
- ・カフェやコンビニなどが欲しい。

<学び・遊び>

- ・「遊び」と「創作」の場を作りたい。(限定されることなく、個々の創造や探求を認めあい、応援する場所)
- ・様々な目的で利用できる場所になってほしい。(会議室→遊び場→勉強の場等々)
- ・オシャレな図書館があったらよい。
- ・1人で長時間いられる場所が欲しい。飲食もおしゃべりも可の図書館。福井県のITSURUGA BOOKS&COMMONS ちえなみき)のような場所。

<文化・音楽>

- ・文化の中心。特に音楽のまちが実現できる施設。
- ・オーケストラ、吹奏楽の発展になる施設。安価で市民が演奏したり、有名な楽団の演奏会が開催したらよい。
- ・高校生が遊べる場所が欲しい。ダンスコートとか、映画館とか。聴ける施設。幸田町のファンコイン演奏会などを参考にしてほしい。
- ・海を眺めながら、音楽を聴いて、ビールが飲める大人の空間がほしい。
- ・常設型のイベントステージが欲しい。(幸田町の)ビジネスヒルのような)

安全・防災

- ・「安全」[もしもの時]の安心の場、避難所としての役割。
- ・防災や交通安全について学べる場所。

蒲郡の誇りを育みたい

- ・綺麗な山並みとともに見る夕日が美しいと思っただいがある。そういった美しい風景を活かしたまちづくりがしたい。
- ・海沿いにあることを活かしたデザインの施設になるとよい。
- ・蒲郡は自然が豊か。コア施設ができることで身近な自然へ誘うことができれば今後も自然体験豊かな市民が共に育つのではないかと。
- ・暑に会いたい。かわいい。
- ・蒲郡の土地で育てた野菜を蒲郡の人が買うことができる場所。
- ・ほかのまちではできないような活動ができる場所がほしい。そこから蒲郡ブランド的なものができるとうい。
- ・市民が蒲郡のよいところを再認識できる場所。市外の人に対しては蒲郡のよいところをアピールできる場所になってほしい。
- ・他の市町村がうらやむような歴史が積み上がる場所にしたい。
- ・地域の子どもが、地元を知ることができる企画が欲しい。
- ・町内会で交流できる場所 ・530 運動 ・防災訓練

情報拠点として

- ・いつでもふらっと立ち寄れるまちの出会いの場であり、情報が集まる場所。
- ・蒲郡を PR できるものやサービスにアクセスできる場があるとよい。
- ・ネット上の情報(イベント、活動公開、不用品の再利用など)を体験できる場所。

周辺環境

- ・既存の施設やもともとあるその場所の良さを生かせる施設だとよい。
- ・博物館などの現状の公共施設を結ぶような場所があるとよい。1回行けばいいやではない。
- ・海沿い、山道のサイクリングロードが整備されるとよい。
- ・駅前シャッター街を蘇らしたい。活気がなくなるとよい。
- ・目立つ空き家を活用したい。
- ・駅前の昔っ払い名残を活かした場所。「蒲郡っぽいね」と言われるものを残したい。そのままが良い味でもある。
- ・レトロな蒲郡「も」景観として大切に残していけるとよい。変わる蒲郡。変わらぬ蒲郡。
- ・「北斎園がわいわいしているぞ」「なにが変わったぞ」と感じさせるものが欲しい。
- ・東港の開発について 例えは道の駅・海の駅をつくる。
- ・東港の開発について イベントをどんどんやる。「うどんザミット・くらふとフェア等」
- ・海を生かした(景観に配慮した)防災計画にしてほしい。

柔軟な運営

- ・新たなランドマークとして未知の体験が可能で、行政の立場では予想できない利用の仕方がされるとよい。
- ・規制や制限の少ない施設がよい。現在は、公園グラウンドもできないことや禁止事項が多い。
- ・公共施設と聞くと「お堅い」イメージがある。緩さがなく、敬遠してしまうかもしれない。
- ・PR をうまくしてほしい。(運営が大事)

アクセス

- ・レンタル自転車に優しいサイクルスポットがあるとよい。
- ・くるりんバスを利用してアクセスをよくしてほしい。
- ・アクセスしやすい図書館がほしい。
- ・フェリーで渚美半島や知多半島の先端に観光で行けるようになるとうい。

※実物は前ページと見開きのため、絵が途中で切れています。

不安の木

まち全体の課題

- ・蒲郡は外から入りづらい感じがする。
- ・若者が市外に働きに出てしまっている。
- ・家を建てる場所がなく、幸田前に流出している。
- ・公園に魅力がないため、つまらない。
- ・耕作放棄地が増えている。
- ・人口の減少が起きている。人口や年齢構成の比率はどう変化しているか。
- ・蒲郡の魅力を知らずに子どもたちが育ってしまうことが心配。
- ・防災施設等で環境を損ねないか心配。
- ・津波への対策が不安。
- ・働く場所が少ない。
- ・面白い仕事・企業が少ない。
- ・発達障がいなどの居場所がない。
- ・野球やスケボ、ローラースケートなどができる公園がない。
- ・相談できる人や場所が少ない。
- ・美術館や文化的なイベントがない。映画館もない。
- ・空き家が増え続けていることが不安。
- ・高齢者の居場所が少ない。
- ・人口の減少が心配。
- ・駅前に大衆食堂のような昼から飲める場所がない。

居場所になるのか

- ・「空間」を「場所」にできるのか。固心地のよい場所になるのか。
- ・当事者意識の低下による社会参加者が減少していくかもしれない。
- ・従来通りのハコモノだけができて終わるかもしれない。
- ・人が来ないかもしれない。
- ・中途半端になって魅力的でないものができるかもしれない。
- ・熱意はあっても、それだけでは事業自体が潰れてしまうのではないのか。
- ・画一的な開発によって他と同じようなまちになってしまうかもしれない。
- ・静かな場所とおしゃべりができる場所の棲み分けができるのか。

蒲郡の自然環境を活かしたものになるか

- ・海も山もあって自然豊かなまちなのに、今はそれをあまり活かしていないように感じる。
- ・自然の素晴らしさは認識しているが「安全」やグローバルな「環境」の考え方につなげられるだろうか。

連携ができるか

- ・関心のある人とない人の温度差、声の大きい人と小さい人の差を解消していけるのか不安。
- ・一層の人だけで考え、決めてしまうことにならないだろうか。
- ・蒲郡市のほかの施設との連携はとっていくことができるのか。
- ・年齢を超えた地域の人たちとのつながりや、さまざまな団体とのつながりは生まれるのだろうか。
- ・蒲郡の文化とのつながりや連携もできるのだろうか。
- ・民間とのコラボを期待したいが、誘致できるのか。(BE KOBE など)
- ・(行政の立場から) 地域に寄り合いがあまりいない。昔の地域のよなものではないが、色々な人との関わりが欲しい。
- ・まちづくりへの住民の熱意の温度差はどうするのか。
- ・少子化の影響もあって、新型コロナウイルスと関係なく同年代の人と話す機会が少なくなっている。

柔軟な運営は可能か

- ・外国人が集まったら「うるさい」と言われることもある。
- ・日本語がわからない人は行きづらいかもしれない。
- ・行政が管理運営をするいわゆる公共施設になってはしくない。(例えば平日の17時で閉館ではなく市民の力を活かして長い時間使えるようにしたい)
- ・規制の少ない運営ができるのか。市民が成熟している必要があるのではないのか。
- ・現在の公共施設の部屋貸しルールが厳しく利用しづらい。
- ・行政の発想が固くて対応できるのか。
- ・時代の変化が激しく、50年後を考えるのは難しい。融通が効いた方がいい。
- ・今までと違う新しい施設を求めるあまり、かえってそれぞれの性の機能が使えにくくなってしまわないか不安。
- ・行政としてこれまでの運用とがらっと変わることが不安。

※実物は次ページと見開きのため、絵が途中で切れています。



リスクマネジメント

- ・宗教の駐舘などがあってほしくない。
- ・不良やホームレスの人たちのたまり場になってほしくない。
- ・イベントを行うと苦情を罵らす人がいるので、それを未然に防ぐための対策を行ってほしい。
- ・防犯対策をしっかり行って安心安全なまちになってほしい。
- ・「海の蒲郡」のシンボルとなる場所としたいが、安全性と両立できるのか。

周辺への影響

- ・全市民が短期間に一極集中してしまうかもしれない。
- ・駅周辺との関係性はどうか。
- ・「商業」と「いこい」は両立できるのか。
- ・周辺の地区の人々の生活が治安面、衛生面などで悪化する危険がある。

情報発信

- ・イベントなどの市民への周知・広報を行ってほしい。
- ・市民のアンテナとなる施設づくりをしてほしい。
- ・外国人の子供は言葉がわからないため、敷居を低くして図書館の多言語化のような対応が望まれる。

元の施設はどうなるのか

- ・既存の施設が潰されると、もともとの施設を削り入っている人が納得できるような場所はできるのだろうか。
- ・今あるほかの施設がいらぬものになってしまうことはないだろうか。

財政

- ・広さや規模感がどのくらいなのか。
- ・市の財政を圧迫しないのか。
- ・ハードができてソフト（運営費）はどうか。
- ・50年使い続けるためには、長く維持管理（メンテナンス）できる施設にしていかなければいけない。
- ・新しい施設をつくって将来負担にならないのか。50年後も使い続けられる施設とはどのようなものか。

立地とアクセス

- ・いつでもどのようなものができるのかわからない。
- ・駐車場はどうか。
- ・車は必須なのか。バスは整備されるのか。
- ・何をすることも断念に行かなければならないかもしれない。
- ・現状としては西浦から市民病院は遠い。複合施設の立地は検討してもよい。
- ・徒歩圏内ではないが、小中学生が訪れることができるか。

学校について

- ・学校の先生の員の低下が起きているか。
- ・小学校の部活が廃止されたが、放課後子どもたちは何をして遊んでいるのか。

その他

- ・手作り野菜が定着しないのではないのか。つくる人・食べる人をつながられるのか。
- ・蒲郡高校の近くは緑豊もバイクがうるさくて怖い。
- ・公園に勝越に合わないような遊具が勝手に増えているのはなぜか。どういったプロセス（意思決定）の結果、遊具が設置されることになったのか。

※実物は前ページと見開きのため、絵が途中で切れています。

さいごに



高野先生

「だって『私たちの場所だもん』といえるような公共施設を、50年後の世代のために、今私たちで考えていきましょう。」



恒川先生

基調講演では、公共空間がたくさんのお話の書籍でできていることにたいへん感動しました。ワークショップでは皆さんが楽しそうに参加されていて、特に若い人たちが積極的に意見を出していたことが頼もしく、印象的でした。



北原先生

今日の発言は、希望も不安も全てが宝物です。
①希望のフレーズをたくさん掲げていこう！
②不安の発言は未来をつくるヒントとしてとても大事です。
③自分を大事にしてくれる場所をつくっていきましょう。
④すべての人が納得することはあり得ませんが、時には対立を恐れず対話を重ね、「みんなが来て大丈夫な場所」にしていきましょう。

参加者より(一部)

①基調講演で印象に残ったこと(気づきカードより)

- ・みんなこんなまちにしたい！という熱意を聞いたこと。すごく楽しかった！
- ・「私たちの場所だもん」…『私たち』と感じられるために、安心安全と感じられる場があることと、安心安全を感じられる人と過ごせること。
- ・子どもたちをワークショップに入れるとよい効果がある。
- ・ワークショップは意見をまとめるためにやるものではない。自分が思ってもいない考えを楽しむ。(びっくりする！ワクワクした)

②ワークショップに参加して

- ・ワークショップから公園ができるまでのストーリーが本当に面白く、参考になった。
- ・皆さんが能動的に積極的に発言されることが素晴らしいと思った。
- ・自分の思ってもいない意見を持っている方もいて、みんなで進めるのはよいと感じた。
- ・高校生自慢がよかった。もっと学生参加してほしい！
- ・グループ内での「自然や文化といった蒲郡の特色をより強く出して行ったほうがよい」という言葉が印象的でした。

③運営全般について

- ・年齢層を広げてほしい。中学生にも参加してもらいたい。
- ・ワークショップの時間をもう少し長くしたほうがよいと思う。
- ・次回も楽しみにしています。

私たちが企画しています！

デザイン会議

外部有識者で組織し、コンセプトや基本構想-基本計画の内容検討を行っています。
積極的に市民意見を取り入れるために、フォーラムや市民ワークショップを企画・運営しています。
恒川和久 / 高野雅夫 / 安井秀夫 / 益尾孝祐 / 平賀研也 / 名畑恵

蒲郡市リーディングプロジェクトニュースレター vol.1

発行日：令和5年1月

発行：蒲郡市公共施設マネジメント課

TEL:0533) 66-1214 / FAX:0533) 66-1183 / e-mail:k-manage@city.gamagoeri.lg.jp

協力：NPO法人まちの緑創育くみ隊

【第2回市民フォーラム・ワークショップ】



蒲郡市
リーディング
プロジェクト

GAMAGORI leading project

ニュース
レター
vol.02

蒲郡市では、図書館などの機能を兼ね備え、市民の居場所や活動拠点となるような場を蒲郡駅周辺に整備する「リーディングプロジェクト」を進めています。

新しい公共施設を築くには市民の声が必要です。

そこで、市民フォーラムと連続ワークショップがはじまりました！

本紙では第2回フォーラム・ワークショップの内容をお知らせします。



第2回ワークショップ …P2～7

2023年2月25日（土）に、第2回ワークショップを開催しました。43人の参加者に加え、学生・専門家らのサポーターと市職員を含めると約80人程のワークショップとなりました。

冒頭、市からは「リーディングプロジェクト」の概要について説明を行いました。事例紹介の後、6グループに分かれてワークショップを行いました。リーディングプロジェクトによって実現したい未来の過ごし方について、たくさんのイメージが話し合われました。最後には各グループが話し合いの成果を発表し、全体で共有しました。



第2回市民フォーラム …P8

2023年1月21日（土）に、第2回市民フォーラムを開催しました。清水裕之先生（名古屋大学名誉教授、前岡崎市民会館芸術監督）の基調講演と、市長を交えたシンポジウムが行われました。

フォーラム	2022/11/5	ワークショップ
1		1
これからのまちと公共施設を考えよう！		こんな蒲郡にしたい？不安と希望を分かち合おう
2	2023/1/21	2
文を語る蒲郡の公共施設を考えよう！		2023/2/25 ビジョンを描く -こんな施設がいいな
		3
		ビジョンを描く
		4
		思いこなしを想定してみよう
		5
		基本理念、基本方針を整理しよう

↓

基本計画策定

第2回ワークショップ当日の流れ

1 はじめに



市から、リーディングプロジェクトの概要の説明を行いました。

2 前回のふりかえりと話題提供



ファシリテーターの名畑さんより、前回のふりかえりと、先進事例として岡崎図書館交流プラザ「リふら」の紹介がありました。

3 ブラカードによるグループ分け



関心の近い人同士でグループをつくるため、一人一人、自分の関心事をブラカードに記入して仲間探しを行いました。

4 グループワーク開始



6グループに分かれ、それぞれにファシリテーターがつけました。

5 写真を選ぶ



卓上にちりばめられた約50枚のイメージ写真から、各自選びました。

6 「すごし方カード」の記入



写真をヒントにしながら、未来のすごし方について思い強くイメージを、「すごし方カード」に記入しました。

7 グループ内で共有



グループの中でイメージを共有し、共通する点や、触発されたことを横造紙にまとめ、タイトルをつけました。

8 全体共有



6グループが集まり、順番に発表して、全体で共有しました。

グループワークの成果

グループワークでは写真をヒントにしながら各々が未来の過ごし方を想像し、話し合いました。第1回ワークショップで出た意見を元に選ばれた写真や、先進事例の写真が並びました。ここでは特に人気のあった写真や共通する内容を項目ごとに整理して紹介しています。

体験と創造のある新しい学び



- ・子どもたちにデジタルを上向きに活用できるようにしてほしい
- ・プログラミングや3Dプリンターへの挑戦などできるとよい
- ・情報の字に入力方も進歩していくべき
- ・子どもたちが新しい技術を学びやすい施設がよい
- ・次世代には高いレベルの技術力、想像力、コミュニケーション力が求められるため、各分野に精通した人材に相談できるような場所と仕組みがあるとよい



- ・外国の料理を習って子どもたちやみんなと食べるような体験がしたい
- ・畑の野菜を提供し、キッチンで子ども食堂やお料理教室を行いたい
- ・デジタルグッズできる場もほしい
- ・多国籍が飛び交うような場がよい
- ・長期休暇はゲームばかりする子どもの状況を打破したい

景観や自然とくつろぎのある場所



- ・美事に景観がりたい
- ・緑がある白アで涼しく感じる
- ・建築物は風が通り、自然のエネルギーを取り入れたい
- ・遠郊の山とか海とか、景色を異ながら土道を歩きたい
- ・屋外テラスで星空や風と共に食事を楽しみたい
- ・花火を昇ることができたら最高
- ・外に芝生広場があって、水場のある遊び場がほしい

内と外のつながり



- ・内と外の空間がつながり、繋がれているフロア
- ・外にも出ていぶわいを出出する場や階段があれば、ぽつぽつと通って通らせて語りあえる
- ・人通りを兼ねながら、一杯のコーヒーが飲める
- ・外部階段でのコンサートを楽しみたい
- ・通りすがりの人も音楽にふれることのできる屋外コンサートがほしい
- ・話場もできて、外で子どもが遊ぶのを見ることができるとよい

子どもと大人、多様な人に役割があり、助け合いを育む



- ・祭りや地域の祭りが作り、それが施設に役立つとよい
- ・障がいや年齢に関係なく、誰もが自分のできる役割を持ち、語りあえる
- ・地域の魅力を体た調で受け継ぐ
- ・自然の木などを使い、ものづくりや火起こしなど防災スキルにもなる学びを大人と子どもが一緒に取り組む
- ・公共施設は高校生以降が利用しやすいイメージがあるので利用があるとよい



- ・ハロウィンやクリスマスなど子どもが楽しむイベント
- ・子どもにとって夢になれること

図書館機能



- ・図書館のような子ども心をくすぐるようなシステムがほしい
- ・絵本や図鑑に関する本などが字が入りやすい図書館がよい
- ・子どもを預けてはくっきり本を選びたい(託児、子育て支援)
- ・開館時間が長い(24時間など)と夫婦で協力しながら図書館にいける
- ・日の当たる広々とした空間で気持ちよく使える図書館がよい
- ・ゆったり本を読んで半日くらい過ごしたい

パーソナルスペースや小スペース



- ・パーソナルスペースを確保しつつ開放感もある場所
- ・人がたくさんいる中でも、自分の集中できる場所があるとよい
- ・便利に使える小スペースがほしい(多目的なスペースが少なく、あっても無目的で使いにくいのが現状)

東三河・蒲郡全体の観光や周辺施設のハブになる



- ・港への導線があり、海のスポーツへの誘導がある
- ・ベンチアートプロジェクトなど「海がある」ことを活かした取り組みとつなぐ
- ・水族館と相互に観光で協力したり、学びを深める生命の海科学館とのつながりをつくる
- ・飾りらしさを生かしたマルシェを開催し、外からも来たいと思える場にした
- ・東三河をひとつとして広域連携し、公共施設の役割分担をしてほしい
- ・特産品の販売で市民同士の地域間交流ができる場がほしい

ふらっと寄ることができる、オープン



- ・仕切りのないオープンな空間で気軽に挨拶・会話・読書などができる
- ・床に座りながら気軽に交流ができる
- ・ここに行けば子連れでも気にしないで過ごせる
- ・ざわざわしていることが許容されるような図書館がよい

アクセスがよく、回遊を楽しむことができる



- ・車以外の手段で気軽に
- ・レンタサイクルの雇用しやすい
- ・気軽に乗車できる月
- ・電氣バスが走れば子育てが移動しやすい

※実物は次ページと見開きのため、文字や写真が途中で切れています。

な場



- ・本を読んだり、勉強したり、パンを食べたり、喋ったり、思い思いに過ごすことができる
- ・放課後に高校生が来る、若い子ども気軽に交わりたい
- ・心地よいノイズがあるから勉強、作業がはかどるのではないかと
- ・子どもと大人「さまざまな趣味や専門性のある方」の自然な関わりがあるとよい



- ・世代、国籍を超えて多様な人が集まり、自由に時間を過ごす

に海、山のある風景を楽しめる
 ぬがあれば観光の人など外の人が利

障壁制の移動手段があるとよい
 ども、お年寄り、障がいのある方、観光

本とカフェのあるざわざわとした空間



- ・家族や友達と子どもを交えてゆっくり食事やお茶ができる
- ・児童館でお昼を召えらると一変することになるので、図書館とカフェを一緒に計画してほしい
- ・カフェのような雰囲気、ドリンクを片手に読書を楽しみたい

音楽のまちとして練習と発表の場



- ・イベントや周辺学校の音楽や演劇の発表会が催せる多目的ホールがほしい
- ・子どもの学びの発表会には場所や形式を選定したものにしたい
- ・小中高校生の練習、発表ができる
- ・音楽を楽しむガラス張りの場所があるとよい
- ・生活の中に、当たり前のもので音楽がそこにある

アートが日常にある



- ・色と空間で身体感覚を刺激するアート空間がほしい
- ・日常にアートを感じられる場所がよい
- ・図書館の趣けささえも、音楽の一つとしてとらえることができる

災害時の避難場所として



- ・災害が発生したときには、地域の人の命を守る場所となる
- ・水や食料、電気の一時的供給場所
- ・地域の防災訓練や人向けの勉強、障がい者や高齢者への声かけ
- ・帰宅困難者の一時避難場所

※実物は前ページと見開きのため、文字や写真が途中で切れています。

発表の概要

イラスト
ワークショップ参加者
水野さん



コメント
名古屋大学教授
植川先生



A班



ずっといたくなる空間 ～いつも行きたい・何處でも行きたい～

私たち蒲郡市民がずっといたくなる空間は、子どもから高齢者まで誰もが行きたいと思う空間です。そういう空間は、市外の方々も訪れたい場所にもなり、新たな交流も生まれる場所になります。



環境配慮と自然の暮らしの視点があざやか！自然・学び・食・芸術が空間でつながる提案がすごいです。

B班



もっと知ってよ！蒲郡



市民や観光客に蒲郡市の魅力を伝えたいという思いです。①世代を超えた交流や町の魅力を発信する機会 ②自由で多様な想いの空間 ③安心して気軽な交通環境整備によって、気軽に蒲郡市の多様な魅力を楽しめるまちづくりをしていきたいです。

蒲郡市の発信力を高め、魅力の空間を中心に、「100したい」という想い手が集まる視点がよいですね！

C班



子育てしやすく、みんなで学び合えるまち

子育て環境を充実させることが、まちづくりになると考えました。芸術や言語、技術など多様な知識を持っている人たちが相互に教え合える環境や仕組みを作ることで、子どもにとっては学校以外の学びや体験になり、老若男女、県内外の方が活躍できる蒲郡市になるのではないのでしょうか。



「子育てに後立つ図書館とは？」を過ぎることで、いい施設、いいまちにつながりそうですね！

D 班



開く



アートや建築・音楽が、オープンに「みせる・みられる」ことで、内と外をつなげることが重要と考えました。それには建築的にも利用する人々のこころも「開く」必要があります。移住者本人の思いから、気軽に、交流を深めるきっかけがあり、子どもと大人と一緒に体験や空間を共有できる施設にしたいです。

ソフトもハードも開くことで、日常的にアートや音楽のある場になる！それによってまた開かれた場所になりますね！



E 班



こんな図書館だったら行くな♡

私たち一人一人が本当に利用したいと思う図書館を議論しました。ただ本を借りに行くだけでなく、ふらっと立ち寄ることができて、繋がり生まれる居場所であり、今までにない機能がある、新たな形の図書館をつくりたいです。



多目的なホールやオープンスペースでつなぐなど、図書館が多世代の憩い場になるアプローチを多様に提案いただきました！



F 班



蒲郡ならではの内と外が交流する空間



蒲郡市には多くの観光客が訪れるが、観光スポットのみの訪問になってしまいます。市内在住の人も市外からやってくる人も楽しむことができ、交流し、蒲郡を「知る」「味わう」ことが出来る空間にしたいです。

蒲郡の資源を生かした経済循環をつくるハブとしての観光拠点の視点がよいですね！



第2回市民フォーラムレポート

「文化香る蒲郡の公共施設を考えよう！」

基調講演：清水裕之先生(名古屋大学名誉教授、前岡崎市民会館芸術監督)



清水先生からはホールを含む公共施設についての先進事例を日本・世界、様々ご紹介いただきました。可見文化創造センターは、清水先生の研究室が携わり、基本構想から運営にわたるまで市民参加を徹底してきました。そこで大事な視点は「社会包摂」「地域の文化芸術を継ぐ」ということでした。文化芸術を育むには、舞台と客席といった発表の場だけでなく、創る場、練習の場、文化芸術のアーカイブ、包括的にプロデュースする機能など、ソフトとハードで文化芸術を支えることが必要とのことでした。また、岡崎市民会館での高校生たちが創った、迫力ある舞台作品を動画でご紹介いただきました。最後には「地域の文化芸術」を育てることは、今からできます。やれることを皆さんでやっていきましょう」と結ばれました。

後半は恒川和久先生(名古屋大学教授)をコーディネーターに、清水先生、平賀研也さん(岐阜県立長野図書館長)、鈴木清明市長を交え、シンポジウムが行われました。市長からは「8万人の人間味あられる蒲郡らしい文化を育み、「音楽のまち蒲郡」としての場を市民が主体となって進めていきましょう」との呼びかけがありました。平賀さんからは一人一人が歌いを共有し、蒲郡の暮らしのシーンにより空間にしていけることが大切とのことでした。また、ホールと図書館の機能をつなぐことと空間や行政組織等の課題についても、語り合われました。

最後は安井秀夫先生(愛知工業大学教授)より「子ども時代蒲郡で育つことが、感性を育むことにつながるように、ハコをつくるのではなく、文化をつくりましょう。それには市民が「何をしたいのか」を語る必要があります。」とのまとめがありました。

参加者より ※アンケートより抜粋して掲載しています

【1/21 市民フォーラムについて】

①話題提供で印象に残ったことや感想

- ・公共施設の計画段階において、運営体制も同時に組織化することの重要性。ハコだけでは文化のまちにはならない。
- ・公共施設に対する新たな視点が得られた。
- ・「主役は市民」「人と人の結びを豊かにする」「うまく利用できるようなうまくプログラムを考える」「現場作業員と市民の交流イベント」
- ・1つのホールについてのプロジェクトだが、これからの蒲郡のまちづくりについて考えることであると気づいた。

②運営について

- ・音声が聞き取りづらかった

(事務局より)

音響トランスによりご迷惑をおかけしました。

【2/25 ワークショップについて】

①ワークショップに参加して

- ・違う視点からのアイデアがたくさん学べた。自分の気持ちを伝えられる喜びがある。
- ・みんな真剣に蒲郡のことを考えていて楽しかった。

②印象的だったこと

- ・お年寄りの方が特に子育てなどに言及していたのが意外であり、よかった。多世代層での交流を行うことは、需要・供給ともにあっても機会がないのだなと考えた。
- ・自分は音楽が溢れるまちにしたいということで参加したが、意見がなくても考え方が違うと実感した。とても良いことで刺激を受けた。音楽と空間、人という話だけではなく、「元」の概念に囚われない」という話がとても印象に残っている。図書館は静かであればいけない、演奏会・発表会は中だけでやるものという当たり前ではなく、改めて考えて、新しい空間、施設をつくることで場が開かれ、人がつながっていくことを教えていただいた。たいへん勉強になった。

- ・蒲郡を愛する人たちが多くて再認識できた。どのグループも「繋がり」や「居場所」というキーワードがあったように思う。子どもも大人も安心して暮らせる地域のコミュニティが作れるような公共施設になるとよい。
- ・子育てのリクエストがさまざまな課題解決に繋がっていること。

③運営全般について

- ・子どもたちにもどんどん参加してもらい、さまざまな世代で議論を深めて欲しい。
- ・総論的意見が多く見られた。より個別かつ具体性のある意見を抱き、活用できるようにしてほしい。

私たちが企画しています！ デザイン会議

外部有識者で組織し、コンセプトや基本構想・基本計画の内容検討を行っています。積極的に市民意見を取り入れるために、フォーラムや市民ワークショップを企画・運営しています。
恒川和久 / 高野雅夫 / 安井秀夫 / 益尾幸祐 / 平賀研也 / 名塚恵

蒲郡市リーディングプロジェクトニュースレター vol.2

発行日：令和5年3月

発行：蒲郡市公共施設マネジメント課

T E L (0533) 66-1214 / F A X (0533) 66-1183 / e-mail : k-mane@city.gamagori.jp

協 力：NPO 法人まちの緑創育くらぶ

2. 市民アンケート結果

(1) 対象・回答結果

属性	対象者数	回答数	回答率
① 無作為抽出による市民	1,500名	525件	35.0%
② 市内7中学校2年生の保護者	693名	218件	31.5%
③ 市内7中学校2年生	693名	634件	91.5%
④ 市内3県立高校の2年生 ※	560名	235件	42.0%

※ 蒲郡高校 240名、蒲郡東高校 160名、三谷水産高校 160名

(2) 回答方法

① 郵送及びWEB

②～④ WEBのみ

※ WEBのみ英語、スペイン語の回答フォームを準備。若干名の回答あり。

(3) 期間

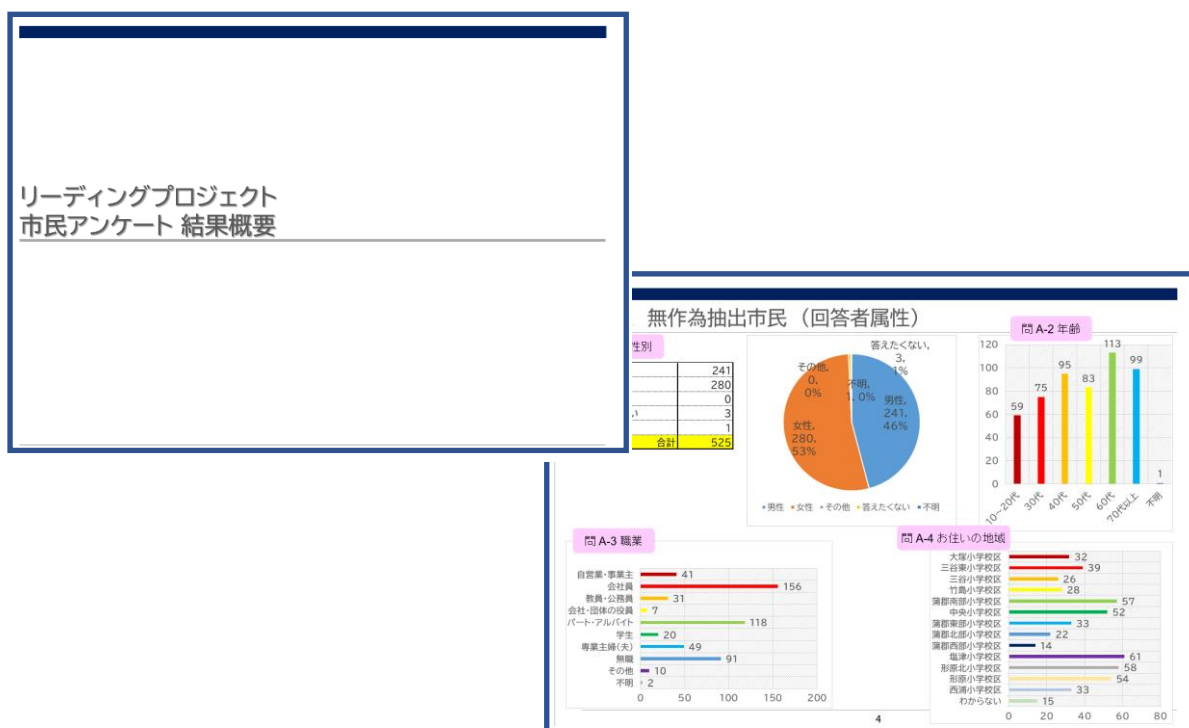
① 令和5年3月24日(金)～4月28日(金)

②～③ 令和5年4月11日(金)～4月28日(金)

④ 令和5年4月20日(木)～5月31日(水)

(4) いただいたご意見

別資料「リーディングプロジェクト 市民アンケート結果概要」をご確認ください。



3. 基本構想策定に関する検討状況

会議	日付	検討内容
第1回 デザイン会議	令和4年5月13日	・事業内容の確認 ・支援事業者選定の検討
第2回 デザイン会議	令和4年7月1日	・事業の進め方の検討 ・施設の方向性の検討
第3回 デザイン会議	令和4年7月25日	・事業の進め方の検討 ・施設の方向性の検討
第4回 デザイン会議	令和4年9月2日	・市民フォーラム・ワークショップの検討
第5回 デザイン会議	令和4年11月1日	・支援事業者との協議 ・施設の方向性の検討
第6回 デザイン会議	令和4年12月16日	・事業の進め方の検討 ・施設の方向性の検討
第7回 デザイン会議	令和5年1月16日	・市民参画のあり方の検討 ・施設の方向性の検討
第8回 デザイン会議	令和5年2月20日	・施設規模の検討 ・施設の方向性の検討
第1回 リーディングプロジェクト検討会議	令和5年4月11日	・事業の進め方の検討 ・事業用地の方向性の整理
第2回 リーディングプロジェクト検討会議	令和5年5月18日	・事業用地の方向性の整理
第3回 リーディングプロジェクト検討会議	令和5年6月30日	・事業用地の方向性の整理
第4回 リーディングプロジェクト検討会議	令和5年8月15・16日	・施設の方向性の検討 ・基本理念・コンセプトの検討
第5回 リーディングプロジェクト検討会議	令和5年10月12日	・施設の方向性の検討 ・取り込む機能の整理
第6回 リーディングプロジェクト検討会議	令和5年10月24日	・事業用地の方向性の整理
第7回 リーディングプロジェクト検討会議	令和5年11月10日	・取り込む機能(ホール機能)の検討
第8回 リーディングプロジェクト検討会議	令和6年1月22日	・取り込む機能(図書館・ホール・生涯学習センター機能等)の検討
第9回 リーディングプロジェクト検討会議	令和6年2月1日	・取り込む機能(施設全体)の検討

※「デザイン会議」は、建築、まちづくり、公共施設運営、市民参画などの専門家による協議体。主に、市民ニーズの把握及び専門的知見に基づく施設の方向性などの検討を実施。

※「リーディングプロジェクト検討会議」は、市役所内のプロジェクト検討チームによる協議体。【土地対策グループ】・【導入機能検討グループ】など検討テーマに合わせ、有識者も交えて検討を実施。

